ビジョンを持って就職活動をしよう

―専門家が山大生にアドバイス―

10月9日に山口大学の大学会館でこれから就職活動を始める学生300名を対象に就職支援講演会が開催されました。講演終了後、ダイヤモンド・ビッグ＆リード社の降矢一朋氏の司会で「就職Q&A勉強会」を開きました。二時間以上に渡って講師の坂本直文氏（グローバルアイ就職研究所所長）が各学部の学生のさまざまな質問に答えて、就職活動に関して具体的にアドバイスをして頂きました。一番関心が集まった質問とその返答・アドバイスを以下に紹介します。

坂本直文氏　プロフィール

ベストセラー書籍:「劇的内定術」、「劇的自己PR」（ソフトバンクパブリッシング）の著者。大学時代から就職コンサルタントを志し、証券会社、広告代理店、新聞社にて各種ビジネススキルを学び、面接官経験も豊富。就職講座の人気講師。ビジネス交渉術、広告のセオリー、心理学を駆使した具体的かつ実戦的指導が特徴。対象はマスコミ、金融から公務員まで幅広く、人気企業を始め、地方有力企業、公務員、公益法人まで多数の内定者を輩出。全国の大学で年間100回以上講演。ダイヤモンドLEAD就職ナビにおける著者のコラム「マシンガンレクチャー」は全国の学生の人気コーナー。静岡県出身。立教大学理学部物理学科卒。資格:心理カウンセラー、EQコーチャー。現在、Eye!就職研究所所長。劇的就職塾主幹。
HP:www.gekiteki.net

絞る前に視野を広げる

Q 企業の絞り方をどうすればいいでしょうか。

A まず、企業の絞り方におけるよくある失敗パターンを説明します。それは自分の頭の中の企業知識の中から選ぼうとすることです。世の中には貴方の頭の中の知識の何千倍以上の数の企業があり、たくさんの職種があるにも関わらず、頭の中のわずかの知識と偏った先入観で選ぶのは大変危険です。これでは失敗する可能性が高いです。したがって、企業絞りを始める前に、まず、視野を大きく広げておく必要があります。多くの企業知識を頭に入れるのです。これには、学生生活課（就職情報相談室）にも置いてある会社情報誌が便利です。お勧め書籍は、①日経会社情報（上場企業・公開企業が全て掲載）、②未上場会社版会社四季報（成長企業が約数千社掲載）③週刊ダイヤモンド別冊法人申告所得ランキング（各都道府県別に優良企業が網羅的に掲載）です。まず①の本を1時間か2時間をかけて見ていきます。その時に付箋を2～4束用意します。そして、先入観を捨て、自分がちょっとでも興味を引かれた企業の欄に付箋を貼ります。一冊につき少なくとも１束は使ってほしいと思います。①が終ったら、今度は②の未上場の企業の本を見ます。実は、上場していない企業のなかに大手の出版社や広告代理店のように有力企業はたくさんあります。そして、まだ従業員は少ないが、力強い成長力を持つ企業も多数載っています。高成長企業で発展的人生を歩みたい人には大変参考になります。以上の作業により、大抵の人は200社から400社ぐらいに付箋を貼ることになります。なお、①、②を使って企業を選ぶ際の主な目安は3つあります。それは、1.コメント、2.売上高の推移、3.利

益の推移の欄に注目することです。各企業のコメントを読んだり、売上高の推移と利益の推移を見ることでその企業の特色が分かります。例えば、売上高が上昇基調にあれば、その会社の商品が社会動向にマッチしていることが分かります。売上高が増え、利益も上昇基調にあれば経営状態が良好であることが推測できます。③に関しては、地方就職する人に大変便利です。この本には日本の企業の中の利益が高い順に7万8,000社が載っており、付属のＣＤ－ＲＯＭを使って様々の企業検索が出来ます。例えば、「山口県」をクリックすれば、1番から10番～100番～1000番とその県におけるベスト企業の順位が分かります。このようにして全国の都道府県の優良企業のランキング表が作れます。また、363業種別の企業ランキングを知ることもできます。以上の3つの本を使うと、今まで自分が知らなかった魅力的な企業が100社、200社単位でたくさん見つかります。上記の方法で志望企業の枠を大きく広げ、ダイナミックな企業選択をした後、今度はインターネットを使い、選択した企業の更に詳しい検索を行えば、自分が主役の就職活動ができます。

企業規模よりライフプラン

Q 就職は大きな企業か小さな企業のどちらがいいでしょうか。

A この答えは貴方のライフプランや人生観によって異なります。したがって、この答えを出すためには、まず、自分はどういう人生を送りたいかを考えることが先決です。その上で、どういう職種がいいか、どういう規模の企業が良いかと考えていくべきです。単にデータだけに注目すると、一見、大きな企業のほうが給料やボーナス、退職金が多く、福利厚生も充実しているので有利に見えます。しかし、大手の企業はリストラとかも多いし、社員同士の競争も厳しいです。それに、どんなに有名な企業に入っても、自分のやりたいことと合わないと辛い毎日となってしまいます。よって、最初に企業の規模だけを基準に企業選択を行うと、就職活動は失敗する可能性が高くなります。大切なのは、企業規模よりも自分のライフプランです。自分は人生をどのように生きていくかを考えて、そのビジョンに合っている企業を企業規模に関係なく選ぶといいでしょう。世の中で成功する人というのは、明確なビジョンを持つ人です。就職活動をする前に、この人生のビジョンを明確化しておくことが非常に重要です。なお、就職活動で成功する人の特徴もやはりライフプランを明確化している人です。

資格を取った理由をアピール

Q 資格を取ったほうがいいですか。

A 実は新卒の就職では、資格は全く関係ないと言って良いです。なぜなら、一般的な大学生が取る資格は半年や１年ぐらい勉強すれば取れる資格。この程度のレベルの資格では何十万人の人が持っていますから、大した差別化にはならないのです。資格は内定の保証には全くなりません。むしろ就職で面接官が重視するのは資格を取得した理由や目的です。例えば、取得理由を聞かれて、「なんとなく…」と答えたら、無目的な行動をする人と見なされ落とされます。したがって、資格に関しては、その追求質問にどう答えるかが重

要です。「その資格をなぜ取ったか、取ることによってどういうことが身についたか、それが当社の仕事にどう役に立つか」。勝負は、これらの返答内容で決まります。

資格を持っていない人でもアピールは出来ます。例えば、「私は資格は持っていませんがアルバイトを頑張りました。アルバイトを通して、私は時間厳守を身につけました」。このように別のセールスポイントを提示すれば良いのです。（時間厳守というのはとても大切なビジネスの資質ですよ）。また、エントリーシートで資格を書く欄がありますがここも同様です。空欄にするのではなく、代案を書けば良いのです。例えば、「資格は持っていませんが○○には自信があります」、「アルバイトではアルバイトリーダーです」のように自分の自己ＰＲをしっかり提示すれば良いのですよ。

OB／OG訪問は効果的

Q 実際にはどういうふうに動いたらいいでしょうか。

A 就職活動の中で一番効果があるものはＯＢ／ＯＧ訪問です。これは自分のライフプランを作るのにもすごく役に立つし、面接対策、内定獲得にも効果があります。できるだけ早く始めた方がいいです。なんと某大学においては、ＯＢ／ＯＧ訪問が1年生の時点から行われているくらいです。そこの学生はＯＢ／ＯＧに「将来、先輩の行っている会社で働いてみたいです」などと相談し、「じゃあ君はこの1年生の時はこういう勉強、こういう教授のこういう授業にちゃんと参加しておいた方がいいぞ。」などと、様々なアドバイスをしてもらっています。3年次の後期からＯＢ／ＯＧ訪問を始める人と比べると既に相当な差がついています。ですから、躊躇することなく今すぐ始めた方がいいです。

具体的な仕方ですが、事前に挨拶状を出すことをお勧めします。なぜなら、誰でもいきなりの電話は不信に思いますが、挨拶状を出しておけば、「礼儀正しい後輩だな」と良い印象を持ち、電話を受けた時も「あの挨拶状をくれた○○さんね」と丁寧な応対をしてくれるものだからです。人付き合いにおいては、こちらが礼儀正しく接すると向こうも礼儀正しくしてくれるものですよ。なお、葉書を出しておくと、向こうから連絡が来ることもよくあります。そのために葉書には必ず自分のメールアドレスと携帯電話の番号を書いておいてください。葉書の文面は例えば、「私は山口大学何々学部の何々と申します。先輩が勤務しておられる○○会社に大変興味があり、現在、就職活動で志望企業とさせていただいております。○○日の何時ぐらいにお電話を差し上げます。簡単でよいですから説明を聞きたいのですが、よろしいでしょうか」のような感じのものがいいです。注意点としては、会うことに拘（こだわ）らないことです。社会人は忙しく、面会をお願いしても時間が合わないことが多いです。通常は電話だけでOKです。電話だけでも十分にいろいろと聞けます。それに電話ならば１日に何人も話ができます。もしも話が盛り上がったら会えばいいです。

ＯＢ／ＯＧ訪問は、誰からコンタクトを取るかも大事です。若い人から順番に会っていくのがベストです。20代の社員は若手の仕事は分かりますが、会社全体のことがまだ分かりません。しかし受験情報には詳しいです。次に30代の人と会うと、会社の中のことがよく分かるので、アドバイスの質が高くなります。ただし、自分が受験したのは、もう10年以上も前のことなので、受験情報の精度は薄れます。そして、会社の大局的なこと、奥深い内部のことを知るためにも40代・50代の人と会うといいです。このアプローチ過程は、面接の良き練習になります。面接も、一次面接から最終面接と段階を重ねるたびに面接官が年配になっていきます。ところで、要領のいい人は、ＯＢ／ＯＧ訪問の時にエントリーシートを持参し、各世代のＯＢ／ＯＧにチェックしてもらい、万全のエントリーシート作りをしています。

採用計画をチェック

Q 就職活動で女性は不利でしょうか。

A 積極的に働いてくれる人だったら平等に採っている会社が一般的です。しかし、実際は採らないくせに途中までは採るふりをしている企業も中にはあります。また、女性のほうが有利な企業もあります。これらのことを知るためにも、事前にその企業の男女別の採用人数、具体的な採用計画などを就職情報誌やOB／OG訪問を通してチェックしておくことをお勧めします。

熱意をアピール

Q 企業はどういう人材をもとめていますか。

A 企業が人材に求める一番の資質は熱意です。なぜなら熱意ある人は、積極的に仕事に取り組み、成果を出してくれるからです。そこで、面接において熱意を示す方法を説明します。これは「私を採ってください」ということを大きな声で言うこととは全く違います。熱意を示す方法は、やりたい仕事（メイン1つ、サブ2つ）をとことん具体的に言うことです。例えば、「私は御社の○○部で現在行っている○○プロジェクトに参加したいです。将来的にはその仕事をこういうふうにやってみたいです。ほかにも、○○の仕事や○○の仕事にも大変興味があります」などと、やりたい仕事のビジョンを具体的に述べ、次々と部署名やプロジェクト名を述べるのです。面接官に「君はそこまで当社のことを調べたの。凄いね！」と思わせましょう。なぜなら、面接官は貴方の企業研究の幅と深さ、掛けた時間の多さに熱意を感じるものだからです。なお、熱意はエントリーシートにも示しましょう。中途半端な出来では、仕事も中途半端にやる人と疑われてしまいます。志望度の高い企業のエントリーシートにおいては、志望理由（やりたい仕事）や自己ＰＲの欄など、徹底的な改善を繰り返し、手間暇掛けて作りましょう。

前のページへ 次のページへ 目次へ

就職戦線「未来の自分探し」

就職なんて難しくない!

植村　高久
教授
経済学部経済学科

私は経済学部で「就職指導教官」という仕事をしています。今までゼミ生や周囲の学生の就職に関わってきました。その経験を踏まえて、今、就職をどう考えたらよいかを述べます。

1.就職が難しいワケ

就職難と言われる状況が続いています。一部は長い不況のせいですが、そればかりではありません。日本は世界で最も賃金の高い国のひとつになっていること、そして中国など低賃金国との厳しい競争があることが大きな理由です。このために製造業を中心にして、企業の倒産や工場を海外に移す動きがあります。雇用も、賃金が安く簡単に人員削減ができるパートなどが増える反面、正社員は必要最小限にとどめ、働きの割に高賃金だと言われる中高年層のリストラも行われているわけです。

新入社員といえども正社員です。長く勤務し重要な仕事を任されているパート従業員よりも賃金が高いこともあります。そこで、賃金に見合っただけの「会社へ貢献する意志と能力」を問われるようになっており、「就職が難しい」と言われるわけです。

この厳しい要求は、不況という景気の波よりもアジアとの競争・分業関係の再編によるものですから、求人数の増減等はあっても、短期で変化することはないと予想されます。

2.状況より「心構え」

こんな話をするとたいていの学生はメゲてしまいますが、否定的に考えないようにしよう！これが最初の提案です。就職活動は厳しいですし、実は仕事はもっとつらいとも聞いています。しかし、仕事はつらいばかりではありません。お客さんに「ありがとう」と言われたり、上司に褒められたりすると、涙が出るほど感激するのも仕事なのです。人の役に立っているという実感は、仕事以外では得にくいものです。

実は一番問題なのは、就職や仕事を「なるべく考えまい」とする消極的態度です。いつかは社会人にならねばならないとすれば、学生の皆さんは「やりがいのある仕事」と「自分に合った生き方」を社会のどこかに見つけねばなりません。この選択は逃げられず、誰でもが通る道ですが、先送りしようとすればするだけ選択肢は狭まり、自分で自分の首を絞めることなる点は注意して下さい。

ここで悩まない人はいないと思います。どんな仕事が自分に合っているか、どんな暮らしをするかについて明確な像を描ける人は、今の大学生にはほとんどいません。しかし、たとえ内定がもらえなくとも、就職活動を通じて生きる方向性を確かめることができ、人間的にも成長することができます。それなりの準備は必要ですが、難しく考える必要はなく、とにかく前に進んでいく気持ちで取り組んでみることが重要でしょう。

3.会社を選ぶ

就職活動で大切だと思われることが２つあります。一つは、おっくうにならないこと。3年生の12月くらいからエントリー(申し込み)が始まります。この時にエントリー・シートを書かされることが多いのですが、かなり面倒なので少数だけエントリーという人がいます。そうすると、すぐに廻る会社がなくなってしまいます。100～

150社位エントリーして、漸く1～2社で内定をもらえると言われています。無闇にエントリーしても無意味ですし、100も一度にエントリー・シートを書けませんから、志望の業種、業務内容を考えて継続的に、しかも多めにエントリーすることをお薦めします。

会社説明会や面接もなるべくたくさんの会社を廻ってみることをお薦めします。会社にはそれぞれ社風があり、同じ業種の似たような会社でもまったく違いますが、これはじかに接してみないと分かりません。自分と波長が合う会社を選ぶことは、満足な就職をする上でかなり重要なことです。

もう一つ大切なことは、こちらから「会社を選ぶ」と考えることです。就職が厳しいので、ともすれば卑屈になり会社に迎合して何とか内定をもらいたいと考える人がいますが、これはほとんど意味がありません。内定が目的ならば、どんな手段でも内定をと考えても良いのですが、その会社で何十年も働くかも知れない選択をするのに自分を曲げても後がつらいだけです。また、説明会・面接を通じて、こんな会社で是非働いてみたいと強く思わないと、なかなか会社に認めてもらえませんし、たとえそこで内定が出ても悩むだけということになりかねません。就職活動では、会社に自分を売り込む、自分を選んでもらうという側面もありますが、自分が会社を選んでいると言うことは忘れてはならないと思います。

最後に、3年生の諸君、元気で就職活動を始めて下さい。

教師を目指す人へ

静屋　智
昭和57年教育学部卒業
山口県教育庁指導課
指導主事

山口県が求める教師像

山口県が求める教師像は、教員採用候補者選考試験の実施要項に次のように明記されています。

- 心身ともに健康で、豊かな人間性と人権感覚を持っていること
- 児童・生徒に対する深い教育的愛情を持っていること
- 教育者としての強い使命感を持っていること
- 豊かな教養と専門的知識を持っていること
- 柔軟な社会性や幅広い社会常識を持っていること

この教師像は、いずれも教師にとって不可欠なものです。この姿をふまえて、以下、私のこれまでの経験を通して、教師を目指す人に向けての思いを述べたいと思います。

教育実習に携わって

私は、前勤務校で教育実習に携わり、11年間で約100名の教育実習生を直接担当しました。教育実習にこられた時は、教師になることを目標としている人、教師になることを迷っている人、教師を目指していない人など、それぞれの思いに違いがあります。しかし、実習が終わりに近づくと、「教師を目指したい」という言葉が多く返ってきます。それは、子どもたちと実際に生活することで、教師という職業に大きな魅力を感じられたからだと思います。

教育実習の中で、「こんな人に教師になってもらいたいなあ」と感じる姿がたくさんありました。子どもたちや教官など誰に対してもきちんと挨拶ができる、一人一人の子どもたちを励まし子どもができるようになったことを共に喜び合う、掃除時間に子どもたちに対して適切な指導をしながら自らも一生懸命に掃除をする、進んで仕事を引き受け責任を持ってやり遂げる、同じ学級に所属する実習生に協力しながら教材研究や準備を手伝う、このような姿です。これは、特に教師を目指す人のみに求められている姿でなく、対象を置き換えると全ての職業に当てはまる姿だと思います。

大学生に求めたいこと

まず、目的意識を強く持ってほしいと思います。前述した実習生の姿と目的意識を照らし合わせると、「教師になりたい」という思いが強い人ほどこのような姿が見受けられました。この姿は上記の求める教師像に重なるとともに、そのまま、今の子どもたちに求められる資質・能力につながります。教師の姿が子どもたちに反映されると言われ、それだけに教師の資質・能力が問われるのです。強い目的意識を持って何事にもチャレンジすることを繰り返すことで、教師に求められる資質・能力が徐々に育まれるものだと考えます。

次に、価値のあるものを見つめることのできる感性、そして知識をもって欲しいと思います。一人一人の子どもた

前のページへ 次のページへ 目次へ

ちには、それぞれ違うよさがあり、学習を通して表出されるものにも多様なよさが含まれています。そのよさをさらに伸ばすためには、教師がよさとして見つめた上で、その子や周りの子どもたちに伝え、適切な指導と評価を継続していくことが必要となります。適切な指導と評価をするには、豊かな感性とともに専門的な知識が不可欠だと思うのです。

教師には確かに経験も必要です。しかし、教師にとって必要な資質・能力のもととなる部分の多くは、教師になる以前に培われるのではないでしょうか。学生時代を目的意識を持って有意義に過ごして欲しいと思います。

企業が求める人物像

谷辺　俊幸
三菱電機（株）福山製作所
遮断器技術第一グループ
グループマネージャー
1982年工学研究科修了

1.自己紹介に代えて

私は1982年に本学大学院を修了後、現在の会社に入って以来、電気器具の開発設計に従事しています。つまり本職の人事屋ではなく、あくまでも本分はエンジニアなのですが、若い頃はリクルーターとして、また近年は山口大学理工系担当の採用マネージャーとして学生の皆さんに接してきた身として、これから就職活動に臨まれる皆さんに対するエールのつもりで日頃感じていることを述べてみます。

2.基礎能力の重要性

最初に強調しておきたいのですが、本拙文のみならず就職情報誌等いろいろな場で語られる「～～な人材」、曰く「個性的」、「主体的」あるいは「一芸に秀でる」といった議論は、基礎能力が当然備わっていることを前提になされていますので、それを忘れないようにして頂きたいのです。基礎能力とは、学問的な知識や学業成績（俗に言う読み書きソロバン）に始まり、物事を論理的に思考したり数理的に分析する能力、決断力や実行力なども含みます。誤解を恐れずに一言で表せば「社会人として生きて行くための常識」です。

ではどのようにしたら基礎能力を高めることができるかですが、広く好奇心を持っていろいろなことに挑戦すること、実際の体験から学ぶことでしょうか。逆説的な言い方になりますが、最近一部の学生で専門分野の勉強しかしていない人や、理工系の学生でコンピューターを用いたシミュレーションは得意なのに現物の感覚が欠如している人を見かけることを残念に思います。

3.企業を取り巻く環境と求められる人材

企業を取り巻く経済環境は非常に厳しいものがあり、また変化も急激です。様々な業界で生き残りをかけたサバイバルゲームが展開されているのはご承知の通りです。こうした環境下では、「変化を先取りして果敢に行動し、変革を実現する意欲のある人」が求められます。こうした人材を表現するキーワードは、「感性」、「柔軟性」、「情熱」、「能動」、「挑戦」、「スピード」、「プラス指向」などです。具体的には、社会・経済や市場の動きを敏感にキャッチして現状を的確に把握すること、そして分析力と洞察力を持って将来動向を見据え正しい対策を立てることが要求されます。

次に特筆されることは、グローバリゼーションの進展です。各企業は地球規模で経営活動をするようになりました。それに伴って「グローバルな舞台で自らを成長させていく意欲のある人」が求められています。この場合のキーワードは、「好奇心」、「バイタリティー」、「向上心」などです。様々な舞台で活躍してみたいという好奇心やバイタリティーを持ち、自らの力でその可能性を切り拓こうとする向上意欲の旺盛な人物が望まれています。なお、海外で活躍できる人材と言うとすぐに語学力という話になりがちですが、これは基礎能力の部分であり、できて当然、できなければハンディになります。

さらに企業は生き残り戦略として、付加価値を生み出せる部分のみを自社で保有し、それ以外を他社と融通し合ったり、低コストの会社へ委託する方向へ進んでいます。このため正社員として採用する大卒の人材には「付加価値を生み出せる高い専門能力を備え、かつリーダーになれる人」であることを期待しています。キーワードは、「特技」、「主体的」、「責任感」、「使命感」、「リーダーシップ」、「人間的魅力」などです。

4.有意義な人生を送るために

最後に皆さんへのエールとして一言。

就職活動にあたっては、いま一度「自分の夢」とか「生き甲斐」について考えてみてください。「企業が求める人物像」の対として「自分が求める企業像」を描き、それにマッチする企業を選択してください。

急激な変化を続ける社会環境にあっては、個人も自己の責任において

自分の人生を切り拓いて行くことが求められます。そのために、いい意味での個人主義を貫いてください。その結果として「個人の幸福の追求」が「組織や社会の幸福」につながるならば、それに優るものはありません。

ただ日々精進あるのみ。

山下　悟史
人文学部
人文社会学科4年
オクラホマ大学修了

「僕は記者が天職だと思ってるんです！」と教授に豪語してから2年。月日の経つのは早い。そして今回念願の記者への切符を手に入れることができた。有難いことです。

皆さん“就職”しましょう。“就社”意識が強い人が多い中、自分がこれから生きていくなかで、どの業種で働くかは決して譲れないはずです。とりあえず大学を出たら社会に出るか、ぐらいの気持ちで活動を始めると必ずどこかで躓(つまず)きます。自分が進みたい道を確定すること。これを外してスタートは切れません。裏を返して言うと、この“核”が不安定な人はなにをやっても中途半端に終わる可能性が大です。

私の場合は幸にもマスコミという漠然としたカテゴリーではなく、なりたいものが新聞記者として確定していました。どうしてその業界に興味があるのか、入ったら何をしたいのか。その解答と新聞記者を目指した最初の思いが、活動の最中はもちろん最後まで自分を支え続けます。言い換えれば私の原点です。各自が持っているその“原点”を突き詰めて“オンリーワン”に昇華して下さい。そうすれば、どの面接に行っても誰の前に出ても決して揺らぐことはないはずです。

活動を振り返ってしみじみと思うことは、「辛かった」し「楽しかった」。でも、活動の最中は楽しむ余裕よりも毎日できることをやっていくだけで精一杯でした。それだけです。仲間とともに議論をし、作文を書き時事問題をやり筆記試験に備える。面接になれば、親ぐらいの年代の人に自分と言う人間を分かってもらうにはどうしたら確実に、かつ的確に伝わるかに腐心しました。出た答えはただ一つ、自分の言葉で語ること。月並みですがこれがかなり難しいのです。雑誌や新聞、誰かから聞いたような台詞は必ず相手の心に響きません。同時にそうしなければ他人と差別化は図れません。

試験をひとつ受けるたびに一喜一憂することは仕方の無いことですが、その結果がどうであれ、自分として納得のいくものであったかを自分に常に問い掛けてください。もし仮に、納得のいくものであれば欠点や反省点を次に生かすチャンスに恵まれたということです。同じことを繰り返さないように気をつけるだけだから。反対に自分で思い当たらない場合は徹底的に考えましょう。思いきって人事部に問い合わすのも手です。私は駄目で元々、何社か電話しました。人生においてこの就職活動なるものは何度もあるわけではありません。常に前進するためにも、昨日よりもさらに“進化”した自分であるためにも、瑣末なことだと捨て置かずに堅実にモノにしていきましょう。

順風満帆の活動ではありませんでした。家族をはじめ支えてくれたすべての人に感謝しています。周囲に内定者が出て焦燥感に駆られる時や、思うようにいかず落ち込むこともあるかもしれません。人は人、自分は自分です。放っておきましょう。そして、自分の手で自分の志す道ぐらい掴み取れなければ、この先社会に出てやっていくのは難しいのではないでしょうか。

何事にも屈しない志と、相手に伝える手段さえあれば必ず貴方を見てくれる人がいます。

努力は決してあなたを裏切りません。

恩師と私：卒業論文提出当日研究室にて

就職体験談

大川　健志
山口市立宮野中学校教諭
平成13年度教育学部卒業

働き出して約5ヶ月。「ああ、そっか。もう学生じゃないんだよな。」と、今でも時々思います。今回は就職のことについて、少し書かせていただきます。

私は、「成長」ということにいつまでも関わっていたいという思いから教員を志しました。こどもと共に自分も成長したいという気持ちです。私は就職するということはゴールすることじゃなく、スタートラインにつくことなんじゃないかな、と思っています。そういう気持ちをもつことは、結構大事なことだと思います。今は情報を得るのが容易になりました。どの職なら自分が活躍できて、なおかつ楽しい（ここ大事）のかじっくり考えられると思います。

そしてその職につくためには、もちろん試験、面接があるわけですが、向こうも使える人間がほしいわけですから、自分が使える人間になるしかないと思います。面接対策というのは大きな壁でしょうが、身なりを整えて、敬語をきちんと使って、マナーを守る。たったそれだけで、あとは自分の思うことを話せる。唯一のチャンスだと思います。今、自己分析などされてますでしょうか。それはきっと、自分が何に向いているか、というよりは、どういう風に役に立てるか、です。自分の得意な事と絡めて、十分にアピールしてください。私は決してできのいいほうではありません。ただ、「俺を通してくれたら、きっといい仕事するよ」という意欲と自信は結構なものだったと思います。

働き出して、ちょっとづつ、自分が役に立つ人間になってきている。そんな幸せを最近少し感じます。思い込みかもしれませんが、人生の中で、「働く」ってそんな感じじゃないでしょうか。自分を好きになれる仕事を見つけてください。

就職活動と出会い

新川　喜子
経済学部経営学科4年

「自ら生み出した『出会い』は、多大なる影響を及ぼし、自身を向上させる。」これは、私が就職活動を行ってきて最も感じた事です。

10月頃からインターネットで企業にエントリーはしていましたが、本格的に動き出したのが２月という事で、少々出遅れたという意識の中、東京でのアポイント無しの飛び込み企業訪問やＯＢ訪問を勢力的に行いました。普通アポ無しでは受け入れてもらえない企業も、遠方からの訪問という事で質問を受け付けて下さったり、就職に関するアドバイスをして下さったりと多くの方に親切にして頂きました。

ＯＢ訪問

経済学部の鳳陽会名簿を見て志望する企業にお勤めされているＯＢを頼り、電話やＯＢ訪問を試みましたところ、実際に働いていらっしゃる方にしか分らない事や夢の実現の為には何が必要かを教わりました。時には、私自身の甘んじた考えにお叱りを受けたり、私の短所と言うべき弱みを端的に指摘して下さったりと本当に後輩思いの先輩に出会う事が出来ました。

等身大の自分を表現する事

よく「等身大の自分を見せる様にしなさい」とアドバイスを受けました。これは、なかなか難しいもので、当初はどうしても背伸びをした自分を面接官に表現していました。先生や友人、更にはＯＢ訪問の際におっしゃって頂いた自分の短所を謙虚に受け止め、自分の弱みを改めて認識しました。最後の2社で短所もしっかり語ったところ、その2社は内定を頂く事が出来ました。それは、等身大の自分を表現出来た為かどうかは分りませんが、自己分析が出来ているという評価は頂けたと思います。

最後に

私は、就職活動を行い2つの事を得ました。1つは、私という人間がどういう人間なのか理解出来た事、2つ目は自ら行動を起こす事の必要性を学べた事です。受身的な就職活動よりも、思いついたら即行動するように心掛けていました。又、面接の際に他の学生と違った事が言える様、今しか出来ないような体験を積極的に取り組むべきだと思います。

自己PRは自分の思う特技を

宮内　将人
理工学研究科
化学・地球科学専攻
博士前期課程2年

自分の長所といわれてもこれといってないし、今まで何かすごいことをしたことがない私にとって自己ＰＲは悩みの種でした。あるとき、就職本の数的処理がすらすら解けたので、面接で数理的思考に長けているとＰＲしたことがあります。でもその後の適性検査の結果は散々なもので、得意と言っておきながら出来なかったショックは大きく鬱になっていた時に、その会社から次の選考会の案内が届きました。その時、会社側は与えられた課題を時間内にやれるかどうかだけを見ていたわけではないのだと感じました。また自己ＰＲどおりに能力が生かされなくても、「自分の能力を分かっていない人」とは思われてはいないようです。自分がもっている特技が人に自慢できるほどではないと思い悩むよりは、すこしでも自分でプラスだなと思っていることは相手に伝えた方がいいと思います。

選考基準

色々な手段を用いて受験者を見ようとしています。12色ペンと白紙1枚を渡されて自己ＰＲを書いて下さいですとか、面接で趣味の話だけで終わってしまったことなどがあり、何をどう評価しているか分からないことが割とありました。ある会社では小論文が途中で時間切れになってしまい、もうダメだなと思っていたら、次の選考会へ行けたということがありました。変わったタイプの選考に面食らっても、その結果に一喜一憂することはないと思うし、自分を出し切れればどうであれそこは評価されていると感じました。

たくさんの会社に触れる

自専攻を生かした有機化学系の研究職を中心に限らず、興味を持った所はどんどん受験しました。そのおかげで、たくさんの会社を体験できましたし、本当にやりたい仕事を見つけることができました。この時期は就職しなくてはいけないという危機感よりも、いろんな会社が見られる興味のほうが勝っていましたし、その分、リラックスして試験に望めたのだと思います。かかる時間と費用はかなりのものですが、就職活動時期にたくさんの会社に肌で触れてみるべきだと思います。

爾今生涯

竹田　宏樹
理工学研究科
環境共生工学専攻

「未来の自分探し」と言うことで、何故か私の所に執筆依頼が来ました。これは適当に就職活動をしてきた私には不向きなことだと思いましたが、私が就職活動を通して感じたことを書いてみたいと思います。

よく、「自己分析ができている学生が勝利を勝ち取る」と言うことを耳にしますが、半分は正しくて、半分は間違っていると私は思っています。そもそも自分をもう何十年もやってきているのに未だに自分が何者なのかわからない訳がありませんし、また、本当に自分がどうだったかなんて最期に振り返ってみないとわからないからです。こう考えると誰もが自己分析をできていますし、誰も自己分析をできていないと言えます。つまり、結局すべての学生に平等に勝つチャンスがあるということです。

チャンスは平等なのですから、何が勝敗を決めるかと言えば、結論から言うと、「まず行動する」ことだと私は思っています。あれこれ考えてこれが良いに違いないと決めて行動しても、それが良かったか悪かったかは後にならないとわかりません。この場合、あれこれ考えるのに膨大な知識と努力を要しますし、もし自分に向いていなかった時にも、あれこれ考えてきたプロセスが邪魔をして中々先に進めません。しかし、まず行動してみると、その行動のために必要なものはこれとこれと言う風に、目的が明確な分、必要なこともハッキリしていて単純ですし、もし自分に向いていなくても、また次の行動を起こせば良いのです。

人生、どこで区切ってもそこが出発地点です、それにまだ若いのですから、今できることに対して理屈を考えず、積極的に行動してみてはどうでしょうか？

前のページへ 次のページへ 目次へ

考えを明確に

岩永　聡司
医学研究科
応用医工学系専攻修士2年

希望職種

私は学部時代に機械工学を専攻し、就職先として乗り物に代表されるような“ものづくり”をおこなっている会社を強く望んでいました。しかし、院へと進学し、新設された医学と工学の融合した応用医工学系を専攻するにあたり、医療現場を目にする機会が増え、使用されている医療機器に非常に興味・関心が沸くとともにその社会貢献度を肌で感じ、医療分野での“ものづくり”に携わる技術者になりたいという強い思いを抱くこととなりました。

就職活動

そんな中、私の就職活動は12月頃に就職サイトへと登録することから始まりました。そして企業へのエントリー時には、大学生活を振り返った上での自己分析、志望動機を明確にすること、研究に対する理解を深めることを行い、加えて自分なりの将来のビジョンを持つことに努めました。ここで重要なのは、それぞれの事項に対する考えを明確にすることとそれに具体性を持たせることだと思います。

そして、4月に入り会社説明会，一次試験となりました。面接試験においては、相手の質問を理解し、それに対応した自分の考えをきちんと相手に伝える能力が必要だと思いました。また、筆記試験においては、一般常識や専門など対策を立てきちんと勉強すればクリアーできると思います。それから、二次試験、最終試験と進んでいきましたが、回を重ねるごとに履歴書の記述事項、研究に関する深い質問が投げられ、自分のみぐるみを一枚一枚はがされていくような感じでしたが、基本的には一次試験と同様に行えばよいと思います。以上のような段階を経て私は内定をもらうことが出来ました。

就職試験を振り返ってみると、エントリー時に考えを明確にしていたことが最後まで就職活動を支えていたと思います。今では，面接時に声が震えたことや、夜行バスでの東京往復も良い思い出です。

皆さんも、自身の方向性を定めて後悔のない就職活動を行ってください。

できることから一歩ずつ

酒井　芳子
農学部獣医学科6年

獣医学科（6年制）の学生が大学卒業後の進路として考慮する選択肢には、一般公務員、小動物臨床、大動物臨床あるいは企業といったものが挙げられ、一口に就職活動といっても実際に自分がどの分野に進みたいかによってその就職活動の仕方は様々だと思います。

就職活動は自主性がカギ

私の場合は入学当初から小動物臨床を希望していたため、就職活動も比較的早い時期から始めた方だと思います。具体的には大学4年生の春頃から長期の休みを利用して動物病院でしばらくお手伝いをしていました。そこでは勤務医の募集はしていないことを聞かされていましたが、一般の動物病院がどのようなものか肌で感じるためにはいい経験だったと思います。その後5年生の夏に就職も踏まえたうえで3ヵ所の動物病院を4日ずつ回り、診察時のアシストや掃除、エサの準備など出来る限りのことを手伝わせていただきました。4日間ずつ連続で3ヵ所回るの

は実際とてもハードでしたが、病院の雰囲気を掴むためには必要な日数だったように思います。動物病院とのコンタクトの取り方としては、2ヵ所は自分で電話連絡をし、もう1ヵ所は研究室の先生の紹介のもとに行きました。さらに5年生の冬にもう1ヵ所電話連絡して、ここでも4日間お世話になりました。この時点で計5ヵ所の動物病院をまわり、その中で自分が最も納得する所を決め、お礼状と共に就職の是非をお願いする旨の手紙をお渡ししたところ幸い快く承諾していただき、内定という形になりました。

迷ったときこそ動いてみる

私は初めから小動物臨床一本に絞っていたため、就職活動も重点をおいて早い時期から始め、比較的じっくり考えて最終決断をすることができました。もし他の選択肢と迷っている場合にはここまで日数をかけることは大変かもしれませんが、許される範囲で何カ所かの動物病院を見た上で小動物臨床へ進むかどうかを決めるのも1つの方法だと思います。

インターンシップは就職活動の第一歩

壱崎　里子
医療短期大学部
衛生技術学科3年

私は、医療系の教育を受けましたが、以前から企業に就職したいと考えていました。それは、私は何事もより深く追求し、また新しいことに挑戦したいという思いが強いタイプだからです。したがって、臨床検査技師として、総合病院などの中で様々な検査業務に従事することは自分には向いていないのではと思っていました。しかし、これは実際の体験に基づく、確定的なものではありませんでした。そこで、本学の夏期休暇を利用した見学研修（インターンシップ）の中で、自分は何をやりたいのか、自分に向いている職場はどこなのか、ということを明確にすることにしました。

研修先として総合病院、がんセンター、企業検査センターを選びました。実際の現場での実習は、本学の実習とは異なることが多く、また慣れないことの繰り返しのために、研修期間中はかなりの疲労がありました。しかし、それ以上に貴重な体験ができたと思っています。たとえば、様々な現場で、その機械化・合理化が如何に進んでいるか、また働く検査技師の方々との交流の中でどのような臨床検査技師としての役割が求められているのか、などを聞く事ができました。また、実際に患者さんとも触れあい、これまでの実習とは違う面白さを知り、それまで病院で働く事を考えていなかった私にとって良い刺激となりました。

私は研修を通し、それぞれ違う職場で働く検査技師の方々の姿を見て、これからは専門性が強く求められ、又、仕事に柔軟で幅広い価値観をしっかり持つことが重要であることを認識しました。すなわち、やはり、私の目指したいのは研究開発の分野で、この臨床検査の基礎教育を如何に生かすか、でした。私は、臨床検査技士として臨床領域ではなく、研究開発の領域で自分の可能性を試すことにしました。それは、臨床検査技師が活躍できる場が病院や検査センターだけでなく、自分の適性や認識によっては、思っていた以上に広いことが認識できたからです。

最後に、研修で得られるものは、自分の将来像の決定や学生時代に身につけてないといけないことなど、学ぶことがたくさんあります。まさに、「百聞は一見に如かず」で有り、又、現場の方たちの後輩へ望むことや、臨床現場では患者さんに接しられますが、医療人として何ができるか、無力さから知識や実践を積まないと何もできないショックも体験します。このように、本学の講義・実習で学ぶ事のできないことを学ぶ、良い機会です。後輩のみなさん、機会が有れば早期の学年がいいです、インターンシップで現場を見学研修することを是非とも勧めます。見学研修を就職活動の第一歩と考え、目的や意欲をもち、更に夢探しにしっかり挑んでください。

前のページへ 次のページへ 目次へ

微かな光が見えてきたが、まだまだ厳しい就職状況

長崎　伸仁
就職委員　教授
教育学部国語教育

微かな光とは

現在、全国国立大学の教員養成系大学・学部の再編・統合が検討されている原因の一つに、学生の出口の問題がある。つまり、現役学生の教員採用率の低さが、再編・統合問題に拍車をかけたといってよい。

事実、近年最悪とされた平成11年度の全国の国立大学の新規卒業者の教員就職率は、全国平均で32％とされ、この内、正規採用教員は14％まで落ち込んだとされている。その最大の原因は当然のことながら、少子化に伴う教員需要の低下にあるのだが、平成13年度（12年度卒業生）の全国の教員採用者数だけをみても1万2千人強に過ぎず、養成系大学・学部定員の１万5千人よりも大幅に下回っていたことになる。

ここで「微かな光」としたのは、計画養成定員が1万5千人から1万人体制となり、新しい課程での卒業者（本学部の教員養成課程定員100人）を輩出する時代になって、全国的に教員需要が徐々に増加の兆しが見え始めてきたことと関係する。全国的には、平成13年度の1万2千人強から平成14年度は１万6千人強へと、約1.3倍強の伸び率である。中国5県をみても、平成13年度は554人だったのが、平成14年度は733人に、平成15年度の採用予定者数は900人に達しようとしている。この増加の傾向は、平成13年度から始まった第７次定数改善計画（少人数指導の導入等）に因るところが大きいが、今後、団塊の世代の教員たちの退職予定と相俟って、さらに教員需要が増加することを期待したい。

しかし、現実はまだまだ厳しい。以下に記す。

まだまだ厳しい就職状況

卒業生の就職状況は、本誌上で学部ごとに示されるであろうから、ここでは詳細は避けるが、平成13年度の本学部の就職率は、数字上においてはここ数年間の中では上位にランクされる。教員も公務員も一般企業も、就職希望者数に対してほとんど80％以上の就職率となっている。しかし、教員や公務員においては、臨時採用教員を含めての数字である現実を直視しなければならない。

教官のみならず、就職を目指す学生当人の危機意識をこそ、さらに喚起しなければならないであろう。実際、学生生活課や学部主催の就職説明会への参加状況などをみても、就職に対する危機感をどれほど持ち合わせているのかと疑いたくなる現状である。今後も、学部就職委員や教室就職委員を中心として、さらに積極的に就職支援を進めていきたい。

今後の展望と若干の提案

本学部の就職委員会は、どちらかといえば教員採用試験に照準を合わせた就職支援を行ってきた。年間を通して実施している教員採用試験のための模擬試験や模擬個人面接、集団討論などもその取り組みの一つである。反面、年度末に西日本を中心とした企業訪問などの対策を講じているとはいえ、一般企業や公務員を希望している学生に対して、手厚い指導が行き届いていないのが現実である。

従来から本学部では、上に記した教員採用試験のための対策には、他学部の学生も少なからず参加し、快く受け入れてきた。今後ももっと積極的に受け入れていくつもりである。

そこで、提案である。今後さらに、それぞれの学部の特色を生かした独自の就職支援対策を全学的にもっと有効に活用できないものか。端的に言えば、学部間の就職支援交流を積極的に推進できれば、全学の学生の就職支援に寄与できる。各学部学生も山口大学の学生である、という広い認識に立てば、今後、学部間の就職支援交流を活発に推進できるのではなかろうか。

理学部学部生の就職事情

岩田　允夫
就職委員　教授
理学部自然情報科学科

理学部の就職動向

今年度卒業予定者の50%弱が就職希望者、50%弱が大学院進学希望者、残りは留学などの針路変更その他を予定しています。

＜情報産業＞例年就職希望者の約40%が情報産業に就きます。この業界は慢性的な人手不足で求人が最も多く、今年も主要な就職先となる予想です。

＜製造・サービス業等＞例年就職希望者の約30%が、事務、サービス、販売、製造業の順に多く就職します。業種は多種多様です。今年度は例年並と予想しています。

＜教員・公務員＞希望者は例年20%強ですが、卒業までに内定するのは約半数です。希望者の多くは2年程度の浪人を覚悟して挑戦している状況です。今年は高等学校理科教員の募集が増加しており、内定者の微増が期待されます。

理学部生の企業就職者の職種は多岐にわたり、基礎学力をもとに専門性を活かすという理学部の特色が強く現れています。

＜9月末現在の状況＞企業就職希望者の内定率は9月末現在で50%強です。今後教員、公務員の結果が出ます。昨年度の最終内定率80%の更新を目指して、就職委員・事務官共に真剣に取り組んでいます。

就職活動中の諸君に

「将来性のある職業は」とか、「どんな職種に就くのが有利か」という質問をうけることがあります。私は「長続きしそうな職業、休日にも自分の能力・技能を伸ばせる職種を選びなさい」と言っています。「継続は力なり」です。食べ物で言えばご飯、毎日食べても飽きないし，深い味わいがあります。正月のおせち料理、食材も上等で美味しいが、毎日食べると嫌になり、お茶漬けやお粥が欲しくなります。

では、適職を見つけるにはどうすればよいでしょうか。まず「自分発見」でしょう。人間誰でも優れたところが必ず有ります。自分では気づいていない長所もあるでしょう。それを職業に結び付けましょう。そして長く続けることです。継続は力を養い、自分を育ててくれます。「未来の時空にある自分」を探し求めるのではなく、「現在の自分を探し、未来の自分をデザイン」しましょう。

指導教官は頑張り続けている諸君を親身になって支えます。最後まで諦めずに、格好良い職業でなくても・・・、自分の力を伸ばしてくれる職業・職場を探してください。私は30年間多くの学生を見てきました。最後には誰もが自分にピッタリの職業・職場にめぐり合っています。

不況下の就職対策とミニ知識

池田　攻
教授
工学部機能材料工学科

金融機関の背景

株価9000円割れという昨今のニュースにも反映されるように、バブル崩壊後の日本経済の停滞と凋落は留まるところを知りません。この不況傾向は日本のみならず世界的規模で展開しております。特に対欧米依存度の高い日本経済にとっては正にダブルパンチで大変手痛い問題となっています。株価の低迷は金融機関の経営を圧迫し、株への関与が大きい生命保険会社のみならず銀行にも大打撃を与えていることは周知のとおりです。そのためか不良債権問題と相まって、急場を凌ぐ策として銀行が合併したり、それでも間に合わないので保有している土地や株を売ったりということで、結果として需給アンバランスの理屈に従い、地価や株価の急落に拍車をかけ悪循環（スパイラル、蟻地獄）に落ち入ってしまいました。要するに自分で自分の首を絞めるということで、どうやら、これを救済できるのは国の介入以外に方法はないようです。

企業の背景

一方において、各企業は現体制を維持するため省力化に努めるかたわら、生産コストを削減するため生産拠点を中国や東南アジア諸国に移すことが常識化しております。現地工場には少数の日本人スタッフが常駐するのみで、生産の担い手は賃金の安い現地雇用の労働者です。このような中にあって、いわゆる製造業と密接に関係している工学部の学生は未曾有の就職難に直面しています。工学部では伝統的に就職率100％が学生を誘い込むセールスポイントでした。しかし、本年はバブル崩壊後でも持ちこたえていた企業の忍耐力がとうとう限界に来たらしく、各科の求人数は昨年より軒並み60-120件ほど減という目も当てられない結果となっております。従って、当然のことながら就職内定率も低下しています。それでも大学院生の内定率は100％をやや切る程度に留まっていますが、この影響を諸に受けているのが学部生で、9月時点で70％台またはそれを切るという学科もあり、非常に厳しい状況です。

インターネット中心の就職活動

インターネットの登場は就職戦線にも大きな影響を与えています。特にWINDOWS98以降はこの影響が大きく、各企業はインターネットを通じて学生の一本釣りを始めました。いわゆる「自由応募」の登場です。企業側では、経営上、賃金の高い日本人の求人をなるべく低く抑える必要があります。そのためには、より優秀な人材を採用したいという願望があるので、この応募体制は非常によく機能しています。しかし、それ以前はいわゆる「学校推薦」が幅を利かせていたわけです。これは大学－企業間の相互信頼の上に成り立っていた伝統的な制度です。現在でも、学校推薦しか採りませんという企業はありますが、その数は少なく、大部分の企業は「自由応募」と「学校推薦」を併用しています。従って、学校推薦の神通力も薄れがちで、学校推薦だから受かるとは限らない状況が生じております。一緒に受けた自由応募の学生が合格する場合も珍しくないので、結果的に学生は束縛の少ない自由応募に流れる傾向にあります。しかし、数は減りましたが、依然として就職希望の学生数をはるかに凌ぐ数の求人が来ております。学校推薦をもっと活用するよう望みます。また、将来進みたい分野（キャリアデザイン）がはっきりしていない学生も多いので、日常生活の中で目標をきちんと持つ習慣が大切です。

本年度の就職状況 -獣医学科の場合-

猪熊　壽
助教授
農学部獣医学科就職担当

獣医学がカバーする範囲

獣医学がカバーする分野は「動物の医療」のほか「公衆衛生」と「生命科学研究」が重要な3本柱となっています。たとえば公衆衛生では、昨今報道されることが多い牛海綿状脳症の検査やO157の検査を通じた安全な食肉の供給、あるいは食中毒の防止など、主として公的機関で行われる業務が具体的な仕事の一端です。また動物の医療においても、牛などの産業動物獣医師あるいは地方公共団体の家畜衛生担当者などは、食の源流の安全確保という点では、公衆衛生の一部を担っているのです。さらに生命科学研究分野では、各種研究所（動物衛生研究所、感染症研究所、大学など）、食品会社、製薬会社などで、動物を丸ごと扱える技術者・研究者として活躍しています。動物の医療を目指して入学した学生も6年間の獣医学教育の中で進路の多様性を知り就職先を決めていくのです。

今年の就職状況

さて、本学科6年生33名の進路希望を4月の段階で調査したところ、18名が小動物、2名が産業動物、17名が公務員（公衆衛生・家畜衛生）、また進学2名という状況でした（重複回答あり）。いっぽう求人としては、高度化する小動物医療に対応して小動物獣医師の求人は相変わらず多く、また昨年初発の牛海綿状脳症の影響もあって、公衆衛生獣医師の需要も増大しており、公務員としての獣医師の募集も多いようです。しかし畜産を取り巻く厳しい状況の中、畜産農家戸数の減少とあいまって産業動物獣医師の募集数の増加はありません。小動物対象の動物病院は多くが個人経営のため、就職活動も随時行われており、早い者では4月の段階ですでに内定していた学生もいます。公務員等の場合、現在（9月上旬）続々と就職内定の報告が届いています。

就職の確定には獣医師国家試験の合格が必須

獣医学科の場合「獣医師免許証の取得」が就職の必須条件となる場合がほとんどです。国家試験は卒業直前の3月上旬に実施され、同中旬に結果が発表されます。不合格の場合は就職が取り消しになることも多々あります。就職先を内定した6年生は12月の卒論発表を終えると、あとは国家試験の合格を目指して受験勉強に集中することになります。就職担当としては6年生の就職活動の成功と国家試験100％の合格を祈念しているところです。

経済学部の就職状況と就職支援体制

柳澤　旭
教授
経済学部就職支援委員会委員長
経済学部経済法学科社会生活法

1内定状況の低下と募集・求人状況変化の兆し

就職担当の窓口で、日々、第一線で担当してくれているAさん、Bさんに、「どんな具合?」、「いやー、内定者は昨年と比べて大幅に減っていますねー!」。この会話は、今年の6月頃から幾度となく繰り返された。なるほど、内定の届があった数は、届けていない学生もいるが、昨年と比べて大きく減っている。

この原因は、長引く不況という客観的な社会経済的要因もさることながら、他方で、学生の就職への意識や取組みの姿勢、大学の支援体制の在りかたについても根本的に再考を促すもの、と主体的に受けとめる必要もありそうだ。

このような就職動向の中で、今年度は「大きな変化」があったことは注目されてよい。企業の求人（募集・採用）の時期が、後半（7月から現在10月以降も）にも、かなり多くなったことである。これは企業の「学生を見る目」が変化しつつあるとみることができるのではないか。早い時期に企業の望む優秀な人材をという考えが、「まだ、就職未定者の中に多くの優秀な人材がいる」ことに着目しはじめたためであろう。事実、公務員試験の結果を待つように求人が多くなった。このようなことは「今年度の特徴」であり、これからの「変化の兆し」かもしれない。

2就職への取組み～学生指導と大学による支援体制

経済学部では、各学科から就職支援委員会の委員を選出し、この4名が就職担当職員とともに、学生の就職指導・支援にあたっている。年間のスケジュールは、1年生から4年生までの各学年に対応した説明会、講演会、就職指導等、多岐に渡る。今年度から学部同窓会（鳳陽会）による地元企業の学内説明会も開催されることとなった。が、その効果の程は今一つの感がある。それぞれの参加者が少ないことである。これは情報の伝達の仕方にも反省すべき点があろうが、学生の意欲も今一つということもある。

そこで、もっとも身近に学生に接して、指導力を発揮してくれるゼミの教官（経済学部では、2年から卒論までの3年間、専門ゼミは原則として同一教官による必修である。）の協力を得る方策が考えられる。そこで求人の都度、「就職情報」を学生と同時に、全教員にメールで配信するようにした。これは効果的であった。個々のゼミ担当者が学生の実情を把握し就職の相談に乗ることによって、内定したものが実際に増えたことである。

また学生にとって、専門ゼミを通してその学問分野における諸問題を考え、文章化し、討論し、自分の意見を述べること（読み・考え・書き・話す）は、いかなる職業に就くにしても、必ず求められる必須の「基本的能力」であり、「創造力の源泉」となるものである。

3 企業の意識変革と学生・大学のコミット

求人にみえる人事担当者とお話ししていて、気になることがある。「元気で活力のある学生を、今年もわが社に迎えたい」と、ありがたい申出である。しかし公言はしていないが（男女雇用機会均等法!）、どうも本当のところは、男子学生を望んでいるフシがある。「わが学部には女子学生も多くいますので、是非よろしく」ということで、男女問わずチャレンジするように学生を指導している。このような企業に、女子学生がチャレンジして、見事内定をした企業から「よい学生を取ることができました」との返事をもらったとき、企業も男女を問わず、能力のある学生をとることに積極的になっていく現実を見る思いがする。

学生も、「男にしか、女にしかできない仕事はない」ということを自覚してチャレンジすること。そして大学もそれをサポートしていくこと。大学も企業に対して、性差によらないで、本当に能力だけで評価することを要望すること。この基本的なことを就職指導・支援にあたり、常に心がけたいものである。

前のページへ 次のページへ 目次へ

学部展望

辻　正二
教授
人文学部人文社会学科

人文学部就職状況は、一昨年度の就職内定率が56％という非常に厳しかったことを受けて、昨年度の内定率はなんとか74％まで回復しました。しかし、文化・基礎系ということで今年度も厳しい就職状況だと認識しています。

これまでの人文学部の学部内の就職体制は、学生部委員が就職指導委員を兼務する体制で指導をしてきましたが、昨年度より部内の2学科から2名の委員を選出し計4名、それに全学のキャリア・デザイン専門委員を加えた5名からなる就職支援委員会を中心に就職・進路指導を行っています。現在、昨年度から開始した2年生就職ガイダンス、3年生就職ガイダンスを年間3回ほど行っています。それ以外に今年度より2年生と3年生を対象に卒業後の進路、希望する業種、就職の準備状況、就職条件、親の意見の影響などの項目からなる「学生の就職意向調査」も実施しました。今後は、こうした意向調査などを実施・分析して、学生の就職への構えやニーズを的確に捉え、支援委員会の指導の指針づくりなど部内の就職支援体制に役立てるとともに、教育へも反映できるようにしたいと考えています。

人文学部で就職を考える場合、語学、文学、歴史、哲学などを学ぶ学生が多いために、どうしても教員志望や公務員をめざす学生が多いというのが伝統的な特色です。ところが、少子化の影響で教員採用数の減少で教職の道も厳しく、公務員の方も希望者が殺到している状況で、人文にとっての二大就職先が難関な就職先になっているのが実状です。昨年度の実績は、公務員23名、教員は7名（ただし、臨採が大半）に留まっています。その分民間企業への就職が増加しています。主な就職先は、サービス系が多く、卸・小売り業、情報通信などが多くなっています。最近目立ってきたものでは、ＮＰＯのような非営利の団体をめざす学生も増えてきたように思われます。とにかく、もう少し一般企業にも目が向くように指導したいと考えています。

学部としては、いまの企業や社会が求めている人材を送り出すために、入学後に専門的知識や技能を高めたり、リーダーとして主体的に統率したり、議論をまとめたり、企画したりする能力を高めていくことが必要だろうと思っています。文系・基礎系の学部の特徴を生かした形で人材育成ができればと考えています。それと就職支援体制も全学と学部で棲み分けも必要であろうと考えています。

それから、就職に対する危機意識に関してですが、今年の4月の学部オリエンテーションや6月に実施した就職ガイダンスなどへの参加や関心などをみるかぎりは、危機感をもっている人は、真面目に就職のことを考え、勉強をし、情報収集もしているようですが、他方では真剣に取り組んでいるのかどうか、よく分からない学生も増えてきているように思われます。これからの社会、「いま」という状況を読みとり、責任感をもってことに当たる人が評価されると思います。

就職内定者をみていると、取り組みの早い人、熱心に就職を探した人が就職内定を確保しています。周囲の親や教師たちが催促したから就職活動をするのではなく、自分で主体的に、自分の適職を見つけ、学内外で開催される就職ガイダンスへの参加、就職雑誌やインターネット上の就職コーナーなどを積極的に活用して自分のめざす企業や職場を見つけることです。それ以外には就職した先輩や志望する企業に同窓の先輩がいるかどうか、知恵を絞ることです。いまは就職支援の施設や機関が、学内外にあります。私のみている限りでは、一生懸命頑張っている人は、就職が決まっています。就職活動期間中は、体力もいります。折角試験をパスしていながら面接の時疲れきってしまわないよう、体力もつけておいてください。

平成13年度産業別就職状況調査表

学　　部

平成14年4月末日現在

項目	学部	人文学部		教育学部(教員養成)		教育学部(非教員養成)		経済学部		理学部		工学部(昼間)		工学部(夜間)		農学部		合計	
就職（内定）者数		111（71）		97（63）		84（54）		249（86）		80（23）		227（51）		30（2）		32（23）		910（373）	
産業別／求人・内定者数		件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者
農業		2	1（0）	3	0（0）	3	0（0）	3	1（0）	2	0（0）	2	0（0）	1	0（0）	9	1（1）	22	3（1）
林業		0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）
漁業		0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）
鉱業		0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	8	0（0）	5	0（0）	0	0（0）	13	0（0）
建設業		32	4（2）	30	0（0）	0	2（1）	51	5（2）	34	0（0）	198	47（7）	174	6（1）	5	0（0）	524	64（13）
製造業	食品・たばこ	25	1（1）	23	（0）	0	1（1）	28	9（2）	25	1（0）	22	5（0）	16	1（0）	44	7（7）	183	25（11）
	繊維工業	3	1（1）	4	0（0）	0	0（0）	3	0（0）	5	0（0）	21	0（0）	10	0（0）	3	0（0）	49	1（1）
	衣料・その他繊維	5	0（0）	7	0（0）	0	0（0）	3	0（0）	3	1（1）	6	0（0）	4	0（0）	4	0（0）	32	1（1）
	出版・印刷等	42	8（4）	35	2（2）	0	3（1）	44	7（2）	31	0（0）	17	2（1）	10	0（0）	11	0（0）	190	22（10）
	化学工業	39	2（2）	35	0（0）	0	2（0）	54	7（5）	69	9（2）	112	17（3）	51	0（0）	30	5（4）	390	42（16）
	石油・石炭工業	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	2	0（0）	2	0（0）	7	0（0）	2	0（0）	0	0（0）	13	0（0）
	鉄鋼業	4	0（0）	4	0（0）	0	0（0）	7	3（0）	4	0（0）	30	2（1）	19	0（0）	0	0（0）	68	5（1）
	非鉄金属	5	0（0）	3	0（0）	0	0（0）	4	1（0）	3	0（0）	23	0（0）	16	0（0）	0	0（0）	54	1（0）
	金属製品	14	0（0）	7	0（0）	0	0（0）	12	2（0）	8	0（0）	20	3（3）	12	0（0）	1	0（0）	74	5（3）
	一般機械器具	7	1（1）	10	1（1）	0	1（1）	19	4（0）	8	0（0）	172	20（1）	142	1（0）	10	1（0）	368	29（4）
	電気機械器具	23	1（1）	24	0（0）	0	0（0）	33	5（1）	33	2（0）	267	12（0）	206	1（0）	1	0（0）	587	21（2）
	輸送用機械器具	10	0（0）	10	0（0）	0	0（0）	14	1（0）	10	0（0）	84	18（0）	72	2（0）	0	0（0）	202	21（0）
	精密機械器具	10	0（0）	15	0（0）	0	0（0）	10	0（0）	29	1（0）	85	2（0）	55	0（0）	9	0（0）	216	3（0）
	その他	34	1（1）	27	（）	0	0（0）	40	2（1）	37	2（1）	138	9（2）	74	1（0）	8	1（1）	358	16（6）
電気・ガス・熱供給・水道		4	0（0）	3	0（0）	0	0（0）	3	1（0）	4	0（0）	6	2（0）	5	0（0）	0	0（0）	25	3（0）
運輸通信	運輸業	39	2（2）	40	1（1）	0	1（1）	45	13（4）	37	0（0）	18	1（0）	15	0（0）	4	1（0）	198	19（8）
	通信業	4	0（0）	6	1（0）	0	1（1）	5	2（1）	4	0（0）	90	2（1）	26	0（0）	2	0（0）	137	6（3）
卸売小売	卸売業	60	5（1）	61	0（0）	0	3（0）	74	12（2）	52	0（0）	17	2（0）	16	0（0）	16	0（0）	296	22（3）
	小売業	70	12（12）	64	4（3）	0	6（5）	100	27（9）	63	5（2）	14	5（3）	12	0（0）	12	3（1）	335	62（35）
飲食	飲食業	12	5（0）	10	0（0）	0	0（0）	15	2（0）	10	0（0）	1	1（0）	1	1（0）	0	0（0）	49	9（0）
金融保険業	銀行・信託業	19	1（1）	22	2（1）	0	2（2）	36	35（10）	19	2（1）	5	3（3）	3	0（0）	3	0（0）	107	45（18）
	証券・商品取引	36	1（0）	25	0（0）	0	0（0）	37	5（2）	28	1（0）	3	0（0）	3	0（0）	5	0（0）	137	7（2）
	保険	18	2（2）	17	0（0）	0	2（2）	20	9（5）	16	0（0）	1	0（0）	1	0（0）	1	0（0）	74	13（9）
	その他	14	（）	12	0（0）	0	（）	13	9（3）	7	0（0）	6	0（0）	5	0（0）	5	0（0）	62	9（3）
不動産業		10	2（0）	9	0（0）	0	1（1）	9	3（2）	7	0（0）	2	1（0）	2	0（0）	2	0（0）	41	7（3）
サービス業	医療保健	21	1（1）	21	0（0）	0	3（3）	22	5（4）	21	0（0）	3	0（0）	3	0（0）	6	0（0）	97	9（8）
	法務	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	1	1（1）	0	0（0）	0	0（0）	1	1（1）
	教育 国公立	21	6（5）	25	59（40）	0	17（13）	19	1（0）	24	3（1）	6	0（0）	6	0（0）	6	0（0）	107	86（59）
	教育 私立	36	1（0）	41	5（4）	0	0（0）	31	0（0）	35	1（0）	12	0（0）	12	0（0）	14	0（0）	181	7（4）
	宗教	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）
	非営利的団体	44	1（0）	41	0（0）	0	0（0）	42	6（4）	44	2（1）	6	0（0）	6	0（0）	14	0（0）	197	9（5）
	その他 情報処理	59	6（3）	31	0（0）	0	10（7）	55	8（3）	149	29（5）	115	0（0）	115	0（0）	58	0（0）		53（18）
	その他 調査業	289	0（0）	274	0（0）	0	0（0）	274	0（0）	274	1（0）	3	0（0）	3	0（0）	6	0（0）	1,123	1（0）
	その他 その他	0	22（16）	13	9（2）	0	19（11）	44	30（13）	0	10（5）	302	48（16）	221	16（1）	28	3（1）		157（65）
公務	国家公務	18	7（5）	13	2（1）	0	0（0）	15	11（5）	13	2（0）	8	1（1）	6	0（0）	2	0（0）	75	23（12）
	地方公務	124	16（9）	120	11（8）	0	10（4）	120	23（6）	131	7（4）	19	14（4）	16	0（0）	43	7（6）	573	88（41）
上記以外のもの		0	1（1）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	1（0）	54	9（4）	0	1（0）	1	3（2）	55	15（7）
合計		1,153	111（71）	1,085	97（63）	3	84（54）	1,306	249（86）	1,241	80（23）	1,909	227（51）	1,346	30（2）	363	32（23）	7,213	910（373）

（　）は女子で内数。

平成13年度産業別就職状況調査表

大　学　院

平成14年4月末日現在

項目 大学院		人文科学		教育学		経済学		理工学(博士前期)		理工学(博士後期)		農学		合計	
就職（内定）者数		9（4）		36（14）		5（2）		309（23）		14（0）		29（11）		402（54）	
産業別／求人・内定者数		件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者	件数	内定者
農業		0	0（0）	3	0（0）	2	0（0）	3	0（0）	0	0（0）	10	0（0）	18	0（0）
林業		0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）
漁業		0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）
鉱業		0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	8	1（0）	0	0（0）	0	0（0）	8	1（0）
建設業		5	0（0）	30	0（0）	27	0（0）	229	48（4）	0	0（0）	29	0（0）	320	48（4）
製造業	食品・たばこ	6	0（0）	23	0（0）	19	1（1）	43	4（1）	0	0（0）	59	12（5）	150	17（7）
	繊維工業	0	0（0）	4	0（0）	3	0（0）	25	0（0）	0	0（0）	5	0（0）	37	0（0）
	衣料・その他繊維	2	0（0）	7	0（0）	3	0（0）	5	1（0）	0	0（0）	3	0（0）	20	1（0）
	出版・印刷等	14	1（0）	35	0（0）	28	0（0）	42	9（0）	0	0（0）	32	0（0）	151	10（0）
	化学工業	5	0（0）	35	0（0）	34	0（0）	180	31（0）	0	0（0）	63	4（2）	317	35（2）
	石油・石炭工業	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	9	1（0）	0	0（0）	0	0（0）	9	1（0）
	鉄鋼業	0	0（0）	4	0（0）	4	0（0）	34	6（0）	0	0（0）	4	0（0）	46	6（0）
	非鉄金属	2	0（0）	3	0（0）	3	0（0）	26	1（0）	1	1（0）	3	0（0）	38	2（0）
	金属製品	7	0（0）	7	0（0）	7	0（0）	27	3（0）	0	0（0）	8	0（0）	56	3（0）
	一般機械器具	0	0（0）	10	0（0）	7	0（0）	177	14（0）	0	0（0）	14	0（0）	208	14（0）
	電気機械器具	0	0（0）	24	0（0）	23	0（0）	299	45（4）	1	0（0）	23	0（0）	370	45（4）
	輸送用機械器具	0	0（0）	10	0（0）	10	0（0）	96	18（0）	1	1（0）	10	0（0）	127	19（0）
	精密機械器具	3	0（0）	15	0（0）	7	0（0）	109	15（1）	0	0（0）	8	1（0）	142	16（1）
	その他	8	0（0）	27	0（0）	26	0（0）	174	11（0）	0	1（0）	33	1（0）	268	13（0）
電気・ガス・熱供給・水道		1	0（0）	3	0（0）	3	0（0）	10	4（0）	0	0（0）	3	0（0）	20	4（0）
運輸通信	運輸業	3	0（0）	40	0（0）	36	0（0）	51	2（0）	0	0（0）	36	0（0）	166	2（0）
	通信業	0	0（0）	6	0（0）	4	0（0）	92	3（0）	0	0（0）	4	0（0）	106	3（0）
卸売小売飲食	卸売業	8	0（0）	61	0（0）	52	0（0）	61	0（0）	0	0（0）	59	0（0）	241	0（0）
	小売業	15	0（0）	64	0（0）	55	0（0）	67	0（0）	0	0（0）	58	0（0）	259	0（0）
	飲食業	2	0（0）	10	0（0）	10	0（0）	11	0（0）	0	0（0）	10	0（0）	43	0（0）
金融保険業	銀行・信託業	0	0（0）	22	1（0）	19	1（0）	21	0（0）	0	0（0）	19	0（0）	81	2（0）
	証券・商品取引	14	0（0）	25	0（0）	22	0（0）	28	0（0）	0	0（0）	24	0（0）	113	0（0）
	保険	2	0（0）	17	0（0）	16	0（0）	16	0（0）	0	0（0）	16	0（0）	67	0（0）
	その他	7	0（0）	12	0（0）	7	0（0）	7	0（0）	0	0（0）	7	0（0）	40	0（0）
不動産業		3	0（0）	9	0（0）	7	0（0）	7	0（0）	0	0（0）	7	0（0）	33	0（0）
サービス業	医療保健	3	0（0）	21	6（4）	18	0（0）	21	2（1）	0	0（0）	21	1（0）	84	9（5）
	法務	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	1	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	1	0（0）
	教育 国公立	2	1（0）	25	19（5）	19	0（0）	24	6（2）	0	0（0）	19	0（0）	89	26（7）
	教育 私立	7	0（0）	41	7（4）	29	0（0）	35	2（0）	2	3（0）	31	0（0）	145	12（4）
	宗教	0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	1（0）	0	0（0）	0	0（0）	0	1（0）
	非営利的団体	5	0（0）	41	0（0）	39	0（0）	49	1（0）	0	0（0）	51	0（0）	185	1（0）
	その他 情報処理	59	0（0）	31	1（0）	0	0（0）	233	22（6）	0	0（0）	27	2（2）	350	25（8）
	その他 調査業	15	0（0）	274	0（0）	274	0（0）	277	3（0）	0	1（0）	280	0（0）	1,120	4（0）
	その他 その他	0	0（0）	13	2（1）	0	2（1）	288	43（3）	1	2（0）	15	1（1）	317	50（6）
公務	国家公務	6	2（1）	13	0（0）	12	1（0）	20	5（1）	4	5（0）	13	1（0）	68	14（2）
	地方公務	12	5（3）	110	0（0）	102	0（0）	130	4（0）	0	0（0）	137	5（1）	491	14（4）
上記以外のもの		0	0（0）	0	0（0）	0	0（0）	54	3（0）	0	0（0）	1	1（0）	55	4（0）
合計		216	9（4）	1,075	36（14）	927	5（2）	2,989	309（23）	10	14（0）	1,142	29（11）	6,359	402（54）

（　）は女子で内数。

第2回運営諮問会議

国立大学法人化に向け 意見白熱!

■ 重本　隆之　総務部企画室企画係長

第2期第2回山口大学運営諮問会議が、9月17日に事務局特別小会議室において開催されました。

第1回の運営諮問会議で加藤学長から、本学における当面の課題として「法人化後の山口大学の在り方」について諮問されたことに伴い、今回の会議では、本学法人化準備委員会で検討され、中間まとめとして提出のあった資料から法人化後の「中期目標・中期計画」、「運営組織」を主に審議されました。審議に先立ち、小嶋、平野両副学長から中間まとめの検討経過について説明があり、これについて「山口大学ならではの特徴の表現方法」や「法人化後の機能的な運営組織体制」等に関して活発な意見交換が行われました。

本会議では、今回の意見を基に、次の3つのグループを編成し、大学側の作業日程に合わせ提言を行うこととし、次回の会議で学長に答申することとなりました。

なお、次回の運営諮問会議は、平成14年12月17日（火）に開催が決まりました。

○各グループの分担委員

1. 中期目標評価部会（小嶋副学長担当）
   - 髙石　道明委員（信州大学教授）
   - 中東　素男委員（宇部興産（株）相談役）
   - 福田百合子委員（中原中也記念館館長）
2. 運営組織部会（平野副学長担当）
   - 秋本　　穣委員（元伊藤忠商事（株）副社長）
   - 佐々木孝治委員（元宇部テクノエンジ（株）代表取締役社長）
   - 中澤　晶子委員（山口大学名誉教授）
3. 大学間連携部会（丸本副学長担当）
   - 岩田　啓靖委員（山口県立大学長）
   - 藤井　俊彦委員（山口県教育委員会教育長）
   - 星出　文生委員（山口県光青年の家所長）

前回（第1回）の議事要旨は、別紙のとおり確認されました。

第1回　山口大学運営諮問会議議事要旨

日　時　平成14年6月21日（金）11時00分～14時45分
場　所　特別大会議室（事務局1号館4階）
出席者　秋本　穣委員、岩田啓靖委員、佐々木孝治委員、髙石道明委員、中澤晶子委員、中東素男委員、福田百合子委員、
　　星出文生委員、松野浩二委員　9名
欠席者　藤井俊彦委員　1名
陪席者　加藤学長、平野副学長、小嶋副学長、丸本副学長、田中人文学部長、河津教育学部評議員、瀧口経済学部長、
　　杉原理学部長、石原医学部長、大坂工学部長、加藤農学部長、藤原東アジア研究科長、中村図書館長、櫻井事務局長
（事務局）総務部長、経理部長、学務部長、施設部企画課長、総務課長、企画室長、その他関係者

議　事　等

1. 学長挨拶

加藤学長から、第2期山口大学運営諮問会議開催に当たり、山口大学は2年後に法人化を迎え、これから数年間は激動の時期となる。これに向かい、地域のなかで存在感があり、また、活発な大学を継続できるよう外部から社会的な御指導・御理解をお願いするとともに、本学の当面の諸課題についても委員各位から客観的な指導を賜りたい旨の挨拶があった。

2. 各委員等の紹介

各委員及び山口大学部局長等の紹介があった。

3. 議長の選出

山口大学運営諮問会議規則第5条第1項の規定に基づき、互選により松野委員が議長に選出された。
松野議長から、山口大学運営諮問会議規則第5条第3項の規定に基づき、副議長に岩田委員を指名する旨の発言があり了承された。

4. 会議の運営について

本会議の公開と公表の方法をどのような形で進めるかについて、議長から諮られ、議事そのものは非公開とし、検討した議事の内容については会議終了後、共同記者会見により伝えることとし、審議内容の公表方法については大学当局と相談の上、広く公表したいとした旨の発言があり了承された。

5. 山口大学の当面の諸課題について

学長から、第1期運営諮問会議において提言されたことに添って山口大学の改革も進んでいる旨が述べられ、本学においては、当面の課題として平成16年4月から国立大学が「国立大学法人」に移行することに関し、次のとおり説明があった。

① 法人化を契機に、大学の本来あるべき役割、機能の強化をどのように図るかということについて、良い機会と捉えていること。
② タイムスケジュールとしては平成16年4月から法人化の予定であり、それまでに大学の制度、組織・運営体制、人事管理、就業規則、財務規則等を整備する必要があること。
③ 全国的レベルで検討する事項と各大学独自で検討する事項があること。
④ 法人化に移行するに当たっては、6年間の中期目標・中期計画を提出し、この事後評価を受けることとなること。
⑤ 本学では「法人化準備委員会」を設置し、細かな事項は部会を設け対応していること。
⑥ 来年1月には法案が国会に提出、審議されることとなると思われる。秋には具体的な法人化像ができてくる。これに合わせて大学でも細かな作業を進めていくことになる。
⑦ 現在、学部再編、大学の統合など全国的な動きがあること、また、大学の特色を作るに当たっては地域ぐるみの特色づくりという方向で進めていきたいこと。
⑧ 2年足らずで法人を迎えることとなるが、本学ではこれに対応すべき準備を進めており、本学の特色づくり、機能強化、大学院の整備、教養教育の充実、産学公の連携などに取り組んでいるところであること。
⑨ 以上、法人化の諸準備に当たり、運営諮問会議と情報交換しながら適切な御意見を承りたいこと。

以上の学長説明を基に、松野議長から、「法人化後の山口大学の在り方」を運営諮問会議の審議事項として取り上げることが諮られ了承された。

平成15年1月に「国立大学法人法案」が通常国会に提出される予定であり、大学から同年7月までには文部科学省へ「中期目標・中期計画、年度計画」を提出することとなる。運営諮問会議では、この計画に役立てるような内容をその都度提言し、大学と情報交換するという形で進めていくことが諮られ了承された。

平野副学長から、法人化問題については、文部科学省で審議された『新しい「国立大学法人」像について』（最終報告）にある4つの項目に分けられており、本学ではそれを2つに区分し、目標評価と制度設計の二つの部会を設け検討を始めているところであり、これらについて集中的に御意見を賜りたい旨の意見が出された。

松野議長から、既に発足している法人化準備委員会について説明が求められ、小嶋副学長から概略説明があった。

各委員からは、主として次の意見があった。

○ 今後、会議の進め方については時間的な制約もあることから、柔軟な対応により進めていくこと。
○ 審議の方向としては、民間の経営手法を導入し的を絞って検討するなど、各委員の専門的な立場で意見を出し合って全体会議で進めていくこと。
○ 法人化の本質に沿い、山口大学として高い理念と目標を打ち出し、どのように魅力あるものにしていくかという視点が必要である。
○ 他大学と異なった山口大学独自の理念、使命、ロマンなどが明確に、大学を運営する者になければならない。山口大学には「発見し、はぐくみ、かたちにする」という立派な理念がある。これを関係者全員が理解・認識して達成のため努力する必要がある。
○ 人材の養成については非常に重要なことであるが、どのように実行するかが問題である。
○ 各部局では、どのような意識をもって運営されているのか。また、どのような問題点等を抱えているのか発表願いたい。

これを受け各学部長等から、それぞれの部局の理念・目標及び現状の問題点等について以下の説明があった。

（人文学部）
「人間の生きることの根源的な問いにかかわり、過去と現在を見据え、将来あるべき姿を模索することを通じて、よりよき未来を担う人間を育てる」ことを念頭に置き、教官・学生で一致して教育・研究に当たっている。さらに生涯学習を通じ、大学教育のみならず社会に出てからの教育も視野に入れた活動をしている。
問題点としては、事務集約化に伴う事務部の改組であり、事務官が少なくなると困る。
（教育学部）
本学部では、平成10年度に教員養成課程100名、新課程140名に編成替えを行っている。現在、教育学部教員養成課程については、全国的な再編・統合が問われているところである。
今後、どのような方向で進むべきか学内で議論をしているところである。
（経済学部）
「実践的な専門職業人の育成」を目標としている。学部のキーワードは、東アジア、地域貢献、ビジネス教育であり、現4学科による経済・経営・法学の3分野での学際的な教育が特徴である。問題点としては、学生の学力差が非常に大きくなり、学部教育の目的達成が困難となっていることがあげられる。
（理学部）
「基礎から考え、基本線から物事を考えられる人材育成」を目指している。理系基礎としての問題点としては、基礎のところに止まりがちとなることである。知識の豊富さの上に積み上げて、自分の何かを出すという教育にも力を入れたい。
（医学部）
学部理念は「広く医学に関する知識、技術及び態度を体得させ、医学に関連した社会的使命を有効に遂行しうる人材を養成する」と「医学の深さを極め、その進歩を図り、文化の進展と人類の福祉に貢献することを目指す」を掲げている。
学生教育に対し、学内措置として医学教育センターを組織し全国で最も進んだ教育システムに取り組んでいる。研究については、世界最高水準を目指し、工学部と連携した応用医工学系独立専攻があり、地域医療に対しては、全人的医療の実施と医師の養成を行い、高度な先進医療を中心に関連病院との連絡を密にとり貢献している。
（工学部）
「教官、学生、職員が互いに信頼する」をモットーとし、学生教育では自分の実力に気付かせ、それを自信に変えていくことを徹底して行っている。
アクションプログラムとしては、教学面においては留年率を下げること。研究についてはトップ30を目指すこと。運営面においては、情報の共有化を図りマネジメントをしっかり行うこと。地域貢献においては、産学公連携を推進していくこととしている。
問題点としては、学生の就職難があげられる。
（農学部）
応用的色彩が強く、実践的な能力を兼ね備えた人材作りを行っている。研究面においては、バイオ関係で優秀な人材が育っており、トップ30を目指せる業績を上げている。
問題点としては、全国的に獣医学の再編・統合の問題がある。
（東アジア研究科）
本研究科は「東アジアを深く理解し敬愛する指導的な高度専門職業人を養成する」、「東アジアの提起する現実的な課題に応える教育と研究を行う」、「上記の教育・研究を常に社会貢献と絡み合わせ地域と連携していく」という使命がある。
目標としては、10年間にユニークでハイレベルな研究科として国際的評価を得ることである。
（附属図書館）
大学にとって最も大切な事は、学生が自分で学習できる環境を整備することと位置付け、学生用図書の整備に努めてきたところである。また、地域に貢献するための知的情報拠点としての整備も併せて推進している。今後も継続して、知性と情報を大切にしていくこととしたい。
（大学教育センター）
入学生の多様化、意識の低下に対し、基礎教育の強化、少人数教育の実施、能力別のクラス編成の実施等を行っている。また、今年度新たに英語能力を高めるためＴＯＥＩＣを取り入れた。英語以外についても実践能力を高めるための語学センター構想があり実施に向け検討しているところである。

○　大学は、社会（マーケット）のニーズに合った人材作りが必要である。マーケットの状態がどのようでありニーズはどのようにあるかを学生に示し、学生は在学中にどのように進むべきかを考えていく事は重要であり、学生、教官ともに自分の使命に対する焦点を定めるべきである。
○　現在高校においても改革は進められているが、少子化問題が根本にある。この少子化傾向に対する取り組みについて、大学として検討はできないか。
○　山口大学が行政法人として、法人格を持ったとして、現在と制度上の事ではなく、主権、責任といったメンタルな部分でどのように変わるのか。具体的に、意味を持った存在の形としてはどのようなことが考えられるのか。また、地域貢献の概念は国立大学にとって今後重要な問題となる。
○　法人化後の大学は、独自の理念とそれを実行するための仕組みを備えているかが重要になってくる。
○　マーケットのニーズに対応した教育という捉え方は、大学における学問という面から見た場合、疑問がある。また、教員養成課程の問題に関しては洗い直しの必要がある。
○　大学の理念・目標とともに学部ごとの理念・目標を一覧に示してほしい。それにより、方向性が明快になり、目標が立てやすくなる。

なお、今後の審議の予定として議長から、大学側で進められている法人化準備の素案（中期目標案等）を基に審議を進めることについて諮られ了承された。

6. 今後の運営諮問会議の日程について
松野議長から、本会議は、今後年内に2回の開催を予定したいとの説明の後、次回の開催を9月17日（第3火曜日）、第3回を12月17日（第3火曜日）との提案があり了承された。

第1回　山口大学運営諮問会議議事要旨

日　時　平成14年6月21日（金）11時00分～14時45分
場　所　特別大会議室（事務局1号館4階）
出席者　秋本　穣委員、岩田啓靖委員、佐々木孝治委員、髙石道明委員、中澤晶子委員、中東素男委員、福田百合子委員、
　　星出文生委員、松野浩二委員　9名
欠席者　藤井俊彦委員　1名
陪席者　加藤学長、平野副学長、小嶋副学長、丸本副学長、田中人文学部長、河津教育学部評議員、瀧口経済学部長、
　　杉原理学部長、石原医学部長、大坂工学部長、加藤農学部長、藤原東アジア研究科長、中村図書館長、櫻井事務局長
（事務局）総務部長、経理部長、学務部長、施設部企画課長、総務課長、企画室長、その他関係者

議　事　等

1. 学長挨拶

加藤学長から、第2期山口大学運営諮問会議開催に当たり、山口大学は2年後に法人化を迎え、これから数年間は激動の時期となる。これに向かい、地域のなかで存在感があり、また、活発な大学を継続できるよう外部から社会的な御指導・御理解をお願いするとともに、本学の当面の諸課題についても委員各位から客観的な指導を賜りたい旨の挨拶があった。

2. 各委員等の紹介

各委員及び山口大学部局長等の紹介があった。

3. 議長の選出

山口大学運営諮問会議規則第5条第1項の規定に基づき、互選により松野委員が議長に選出された。
松野議長から、山口大学運営諮問会議規則第5条第3項の規定に基づき、副議長に岩田委員を指名する旨の発言があり了承された。

4. 会議の運営について

本会議の公開と公表の方法をどのような形で進めるかについて、議長から諮られ、議事そのものは非公開とし、検討した議事の内容については会議終了後、共同記者会見により伝えることとし、審議内容の公表方法については大学当局と相談の上、広く公表したいとした旨の発言があり了承された。

5. 山口大学の当面の諸課題について

学長から、第1期運営諮問会議において提言されたことに添って山口大学の改革も進んでいる旨が述べられ、本学においては、当面の課題として平成16年4月から国立大学が「国立大学法人」に移行することに関し、次のとおり説明があった。

① 法人化を契機に、大学の本来あるべき役割、機能の強化をどのように図るかということについて、良い機会と捉えていること。
② タイムスケジュールとしては平成16年4月から法人化の予定であり、それまでに大学の制度、組織・運営体制、人事管理、就業規則、財務規則等を整備する必要があること。
③ 全国的レベルで検討する事項と各大学独自で検討する事項があること。
④ 法人化に移行するに当たっては、6年間の中期目標・中期計画を提出し、この事後評価を受けることとなること。
⑤ 本学では「法人化準備委員会」を設置し、細かな事項は部会を設け対応していること。
⑥ 来年1月には法案が国会に提出、審議されることとなると思われる。秋には具体的な法人化像ができてくる。これに合わせて大学でも細かな作業を進めていくことになる。
⑦ 現在、学部再編、大学の統合など全国的な動きがあること、また、大学の特色を作るに当たっては地域ぐるみの特色づくりという方向で進めていきたいこと。
⑧ 2年足らずで法人を迎えることとなるが、本学ではこれに対応すべき準備を進めており、本学の特色づくり、機能強化、大学院の整備、教養教育の充実、産学公の連携などに取り組んでいるところであること。
⑨ 以上、法人化の諸準備に当たり、運営諮問会議と情報交換しながら適切な御意見を承りたいこと。

以上の学長説明を基に、松野議長から、「法人化後の山口大学の在り方」を運営諮問会議の審議事項として取り上げることが諮られ了承された。

平成15年1月に「国立大学法人法案」が通常国会に提出される予定であり、大学から同年7月までには文部科学省へ「中期目標・中期計画、年度計画」を提出することとなる。運営諮問会議では、この計画に役立てるような内容をその都度提言し、大学と情報交換するという形で進めていくことが諮られ了承された。

平野副学長から、法人化問題については、文部科学省で審議された『新しい「国立大学法人」像について』（最終報告）にある4つの項目に分けられており、本学ではそれを2つに区分し、目標評価と制度設計の二つの部会を設け検討を始めているところであり、これらについて集中的に御意見を賜りたい旨の意見が出された。

松野議長から、既に発足している法人化準備委員会について説明が求められ、小嶋副学長から概略説明があった。

各委員からは、主として次の意見があった。

○ 今後、会議の進め方については時間的な制約もあることから、柔軟な対応により進めていくこと。
○ 審議の方向としては、民間の経営手法を導入し的を絞って検討するなど、各委員の専門的な立場で意見を出し合って全体会議で進めていくこと。
○ 法人化の本質に沿い、山口大学として高い理念と目標を打ち出し、どのように魅力あるものにしていくかという視点が必要である。
○ 他大学と異なった山口大学独自の理念、使命、ロマンなどが明確に、大学を運営する者になければならない。山口大学には「発見し、はぐくみ、かたちにする」という立派な理念がある。これを関係者全員が理解・認識して達成のため努力する必要がある。
○ 人材の養成については非常に重要なことであるが、どのように実行するかが問題である。
○ 各部局では、どのような意識をもって運営されているのか。また、どのような問題点等を抱えているのか発表願いたい。

これを受け各学部長等から、それぞれの部局の理念・目標及び現状の問題点等について以下の説明があった。

（人文学部）
「人間の生きることの根源的な問いにかかわり、過去と現在を見据え、将来あるべき姿を模索することを通じて、よりよき未来を担う人間を育てる」ことを念頭に置き、教官・学生で一致して教育・研究に当たっている。さらに生涯学習を通じ、大学教育のみならず社会に出てからの教育も視野に入れた活動をしている。
問題点としては、事務集約化に伴う事務部の改組であり、事務官が少なくなると困る。
（教育学部）
本学部では、平成10年度に教員養成課程100名、新課程140名に編成替えを行っている。現在、教育学部教員養成課程については、全国的な再編・統合が問われているところである。
今後、どのような方向で進むべきか学内で議論をしているところである。
（経済学部）
「実践的な専門職業人の育成」を目標としている。学部のキーワードは、東アジア、地域貢献、ビジネス教育であり、現4学科による経済・経営・法学の3分野での学際的な教育が特徴である。問題点としては、学生の学力差が非常に大きくなり、学部教育の目的達成が困難となっていることがあげられる。
（理学部）
「基礎から考え、基本線から物事を考えられる人材育成」を目指している。理系基礎としての問題点としては、基礎のところに止まりがちとなることである。知識の豊富さの上に積み上げて、自分の何かを出すという教育にも力を入れたい。
（医学部）
学部理念は「広く医学に関する知識、技術及び態度を体得させ、医学に関連した社会的使命を有効に遂行しうる人材を養成する」と「医学の深さを極め、その進歩を図り、文化の進展と人類の福祉に貢献することを目指す」を掲げている。
学生教育に対し、学内措置として医学教育センターを組織し全国で最も進んだ教育システムに取り組んでいる。研究については、世界最高水準を目指し、工学部と連携した応用医工学系独立専攻があり、地域医療に対しては、全人的医療の実施と医師の養成を行い、高度な先進医療を中心に関連病院との連絡を密にとり貢献している。
（工学部）
「教官、学生、職員が互いに信頼する」をモットーとし、学生教育では自分の実力に気付かせ、それを自信に変えていくことを徹底して行っている。
アクションプログラムとしては、教学面においては留年率を下げること。研究についてはトップ30を目指すこと。運営面においては、情報の共有化を図りマネジメントをしっかり行うこと。地域貢献においては、産学公連携を推進していくこととしている。
問題点としては、学生の就職難があげられる。
（農学部）
応用的色彩が強く、実践的な能力を兼ね備えた人材作りを行っている。研究面においては、バイオ関係で優秀な人材が育っており、トップ30を目指せる業績を上げている。
問題点としては、全国的に獣医学の再編・統合の問題がある。
（東アジア研究科）
本研究科は「東アジアを深く理解し敬愛する指導的な高度専門職業人を養成する」、「東アジアの提起する現実的な課題に応える教育と研究を行う」、「上記の教育・研究を常に社会貢献と絡み合わせ地域と連携していく」という使命がある。
目標としては、10年間にユニークでハイレベルな研究科として国際的評価を得ることである。
（附属図書館）
大学にとって最も大切な事は、学生が自分で学習できる環境を整備することと位置付け、学生用図書の整備に努めてきたところである。また、地域に貢献するための知的情報拠点としての整備も併せて推進している。今後も継続して、知性と情報を大切にしていくこととしたい。
（大学教育センター）
入学生の多様化、意識の低下に対し、基礎教育の強化、少人数教育の実施、能力別のクラス編成の実施等を行っている。また、今年度新たに英語能力を高めるためＴＯＥＩＣを取り入れた。英語以外についても実践能力を高めるための語学センター構想があり実施に向け検討しているところである。

○　大学は、社会（マーケット）のニーズに合った人材作りが必要である。マーケットの状態がどのようでありニーズはどのようにあるかを学生に示し、学生は在学中にどのように進むべきかを考えていく事は重要であり、学生、教官ともに自分の使命に対する焦点を定めるべきである。
○　現在高校においても改革は進められているが、少子化問題が根本にある。この少子化傾向に対する取り組みについて、大学として検討はできないか。
○　山口大学が行政法人として、法人格を持ったとして、現在と制度上の事ではなく、主権、責任といったメンタルな部分でどのように変わるのか。具体的に、意味を持った存在の形としてはどのようなことが考えられるのか。また、地域貢献の概念は国立大学にとって今後重要な問題となる。
○　法人化後の大学は、独自の理念とそれを実行するための仕組みを備えているかが重要になってくる。
○　マーケットのニーズに対応した教育という捉え方は、大学における学問という面から見た場合、疑問がある。また、教員養成課程の問題に関しては洗い直しの必要がある。
○　大学の理念・目標とともに学部ごとの理念・目標を一覧に示してほしい。それにより、方向性が明快になり、目標が立てやすくなる。

なお、今後の審議の予定として議長から、大学側で進められている法人化準備の素案（中期目標案等）を基に審議を進めることについて諮られ了承された。

6. 今後の運営諮問会議の日程について
松野議長から、本会議は、今後年内に2回の開催を予定したいとの説明の後、次回の開催を9月17日（第3火曜日）、第3回を12月17日（第3火曜日）との提案があり了承された。

名誉教授称号授与

廣中平祐前学長へ名誉教授称号授与

■ 有吉　義和　総務部総務課広報・調査係長

6月18日開催の第641回評議会で、平成8年5月16日から平成14年5月15日まで2期6年学長を務められ、本学の充実・発展に多大なる貢献をされた廣中平祐前学長への名誉教授称号授与が決定され、それに伴い7月18日に学長室で名誉教授称号が授与されました。

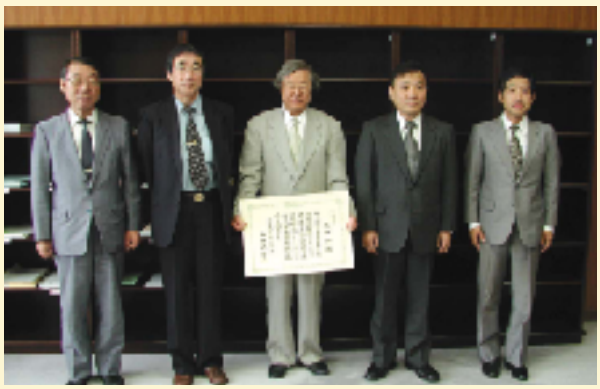
同氏は、この間、理工学研究科、医学部寄附講座、地域共同研究開発センターにおける寄附研究部門、大学院独立専攻（環境共生工学専攻及び応用医工学系専攻）、医学部保健学科及び大学院東アジア研究科の設置等本学の特性を生かした教育研究体制の整備に努めるとともに、学内施設としてアドミッションセンター、大学教育センター、留学生センター及びメディア基盤センター等を設置し、ＡＯ入試の実施等入学者選抜方法の改善、共通教育・専門教育の企画・改善・実施、留学生の教育・指導及び交流の促進、情報ネットワークシステムの効率的管理運用及び情報環境の高度化の推進等本学の教育・研究活動の充実発展に大きく寄与されました。

また、山口大学の理念の設定、オフィスアワーの設定、おもしろプロジェクトの導入及び学生の学長表彰制度の拡充等学生に対する啓発的企画の実施は、本学の教育環境の飛躍的向上となりました。

さらに、タイ5大学をはじめとする多くの外国大学と学術交流協定を締結する等国際交流においても顕著な貢献をするとともに、地域共同研究開発センターの充実やＴＬＯ設立をはじめ、地域における産学官連携においても常に指導的役割を果たされました。

一方、本学の教育研究活動、社会連携、国際交流の促進、研究成果等の社会への還元及び学生支援等の推進を図るためには、多様な資金確保を行い財政的基盤を充実させる必要があります。同氏がいち早くその点に着目し、「財団法人山口大学教育研究後援財団」を設立したことは、今後本学の発展と学術の振興に寄与するものと高く評価されています。

学術面においては、数学、特に代数学・幾何学の分野において国際的評価の高い数多くの業績を果たされました。これら業績に対してリサーチ・コーポレーション賞、朝日賞、日本学士院賞、フィールズ賞及び文化勲章等多数の著名な賞を受賞し、歴史にその輝かしい功績を残されました。現在も財団法人数理科学振興会理事長、京都大学名誉教授、ハーバード大学名誉教授、アメリカンアカデミー会員、日本学士院会員、フランス科学アカデミー外国人会員、マドリッド大学名誉博士、パデュー



大学名誉博士、ピサ大学名誉博士、ロシア科学アカデミー外国人会員、韓国科学技術アカデミー名誉外国人会員として国内はもとより、国際社会及び学界等において、幅広く活躍されています。

以上のように同氏は、優れた見識及び卓越した先見性並びに行政手腕を持って、大学の管理・運営に献身的に取り組み、地域基幹総合大学としての本学の存在感を強く印象づけるとともに、本学の発展充実に多大の貢献をした功績は誠に顕著です。

授与式では、これらの功績を讃え、平野充好副学長、丸本卓哉副学長及び櫻井清事務局長同席のもと、加藤紘学長より同氏へ称号記が手渡されました。

CATVによる情報発信スタート

ケーブルテレビでの山口大学紹介の放映

■ 上谷　克弘　総務部企画室長

山口大学では、「地域に存在感のある大学」を目指して地域とともに共存していくことを一つの柱としています。そのためにはまず地域の皆様に、大学をより身近な存在として、知っていただくことが大事と考えています。その活動の一環として、このたびケーブルテレビで大学の紹介番組を放映することになりました。

チャンネル・放映時間帯等は次のとおりです。

チャンネル	山口ケーブルＴＶ　12ch
放映開始	平成14年9月2日(月)～毎日
放映時間	毎日　19:10～19:40　30分間
放映単位	月曜日～日曜日を1単位とし、 1～2単位は同じ内容を放映

テレビ番組は、小嶋副学長を統括責任者とするプロジェクトの下に「ケーブルテレビ番組制作委員会」を組織して、番組の企画から撮影・編集までの制作一式を担当することとしています。（編集の一部は外注しています。）

番組の内容は、大学の知的財産である教官の研究内容の紹介、物的財産である施設や設備品などの紹介、また、大学の各種行事や催し物（シンポジウム、公開講座等）、入試などの情報提供、学生生活や課外活動の紹介などが予定されていて、これらの情報をタイムリーに分かりやすく地域社会に発信していく計画です。

これにより、共同研究やベンチャービジネスの起業、また、生涯学習社会への貢献など地域と一体となった活動の展開が期待されています。

番組として紹介したい情報があれば総務部企画室又は広報室までお知らせ願います。

タイトル画面

ナビゲーター小嶋副学長

国際交流

慶尚大学校からの来訪

■ 加藤　崇雄　教授　理学部数理科学科

1．慶尚大学校

2002年8月27日（火）から8月30日（金）までの日程で韓国國立慶尚（キョンサン）大学校自然科学大学の金榮浩（キムユンホ）教授と金長煥（キムジャンファン）行政室長が来学されました。目的は山口大学理学部の研究スタッフおよび分野、教育環境の視察でした。

慶尚大学校は韓国慶尚南道晋州（チンジュ）市にある大学校でその自然科学大学（日本では学部に相当するもの）と山口大学理学部は1999年11月26日に学術交流協定を締結しました。晋州市は慶尚南道で3番目に人口（約30万）が多く、絹製品をはじめとする農産物の集散地として発達した町だそうです。市内の交通渋滞は山口の比ではありませんが、少し郊外に出ると田園風景が広がるところなど山口との共通点もあります。慶尚大は11の大学（学部）からなる総合大学で、その規模も山口大学に類似しています。その立地条件からか、その前身が農業大学だったこともあって、農学関係が最強の分野であると聞いています。

2．千恩珠

実は、昨年4月から今年の2月まで慶尚大の博士課程に在籍している千恩珠（チョンウンジュ）という女子学生が日本国際教育協会で行っている短期留学（受入）推進制度の援助を受けて山口大学に留学し、私が指導教官として指導にあたりました。彼女は大変アグレッシブな学生でした。たとえば、来日前にはある事情で殆ど日本語の学習をすることができず、当初は英語でセミナーをしていたのですが、夏休みに入る頃にはセミナーは日本語でする方がしやすいというまでになりました。ちなみに、彼女の英語力は平均的な理学部の学生をはるかに凌駕するものです。それは、もちろん数学

1999年11月26日の調印式後の集合写真

1999年11月26日の調印式

にもいえることで、来日以来その進歩は目を瞠るものがありました。それは、韓国での彼女の指導教官（金善正教授、後述）も驚いていたほどです。そして何よりも重要なことは、彼女が山口大学および山口市の雰囲気を大変好ましく思って帰国したことでした。

韓国帰国後、彼女が山口大学のことをおおいに喧伝したことが、今回のお二人の山口大学訪問のきっかけになったのではないかと私は推測しています。それは、お二人の口ぶりからも窺い知ることができました。

3．理学部教官との懇談

8月28日午前9時半に理学部玄関前にお二人をお迎えし、まず、理学部内を案内しました。建物の改修後であったことは幸いでした。その後、理学部側からは学部長、評議員、各講座から1名、事務長の計8名が出席し懇談会に移りました。懇談会では理学部各講座の研究分野、教育内容などの紹介、慶尚大学校の状況を中心に約１時間半にわたり意見交換をしました。この間、慶尚大学校では共同研究の推進、留学生の交換などを積極的に求めている様子が窺えました。また、慶尚大学校では夏期のショートプログラムもあるとのことで、今後、学部間協定に留まらず、大学間協定にしてより親密な交流が促進されればと願っています。

4．金善正教授

話は今から約3年前に遡ります。1999年8月中旬に福岡で開催された国際研究集会(ISSAC)のセッション・オーガナイザーとして、慶尚大学校の金善正（キムソンジョン）教授を招待しました。金教授は、私とは彼が10数年前にソウル大を卒業した直後からの知り合いで、現在では、日本、アメリカ、イタリア等の数学者と幅広く共同研究を展開している気鋭の数学者です。研究集会の終了後、彼は彼の学生を2人（そのうちの一人が千恩珠でした）伴って私と共に山口に戻ってきました。

私は以前、岩田理学部長（当時）との雑談で「理学部も多くの大学と実のある学術交流協定を結ばなくてはいけない」といっていたのを思い出し、金教授に話したところ、慶尚大でもそう考えているということで、早速、彼と一緒に学部長室に出向き、事情を説明しました。

その後、各々の学部の承認も受け、協定締結の準備が整いました。慶尚大学校で調印式を行うことになり、いよいよ1999年11月25日朝に岩田理学部長が韓国に向け出発し、私も随行しました。その日は晋州市のホテルに宿泊し、翌26日の午前に無事調印を済ますことができました。その後、学内を見学し、大学総長臨席の昼食会に招待されました。そして、翌日帰国するために列車で釜山に戻りました。その晩は釜山港近くのチャガルチ市場に何軒か並んでいる魚料理の安食堂に入り、岩田教授と二人でテーブル上に所狭しと置かれた何種類もの刺身をつつきながら両大学の発展を祈りつつ、Jinro Soju で祝杯を重ねたことでした。

5．追記

最後になりましたが、今回の来訪に際して、その受入の手配、接待などに尽力された、国際企画課、理学部の事務の方々に感謝の意を表します。

kato@yamaguchi-u.ac.jp

国際交流

北京師範大学開校100周年記念式に参加して

丸本　卓哉　副学長　大学教育センター長

本年は日中国交30周年の記念の年に当たり、北京では日本から元橋本首相をはじめ多数の政財界人や関係者が参加して盛大な記念式典が行われたばかりです。その約2週間程前、つまり9月4日から10日まで、私は北京師範大学の開校100周年記念式に招待されて中国を訪問し、滞在しました。

北京師範大学は当初、教員養成の師範大学としてスタートしましたが、現在では総合大学として教育・研究を行っている学部数12、研究所10、学生数約20,000名の大学で、中国における伝統ある有名で大きい3大学の1つです。他の2つは北京大学、清華大学ですが、北京師範大学は中国にある多くの師範大学の頂点に立っています。100周年記念式典は人民大会堂で実施され、江沢民主席以下、主要閣僚の出席の下に約3000人の関係者が参加して行われました。テロ警戒のために写真機持込が禁止された為に、写真を撮れなかったのが残念です。写真1と2は100周年記念の招待夕食会と北京師範大学学長，鐘秉林（Zhong Bing Lin）氏とのツーショットです。

中国訪問は今回で4度目です。平成10年に、北京師範大学の資源研究所助教授である顧衛（Gu Wei）氏の依頼で内モンゴルの高速道路法面の緑化に関する調査研究に出かけたのが最初です。以来、内モンゴルや三峡ダム建設地である宜昌市周辺の裸地斜面の緑化と樹林化に関する北京師範大学との共同研究を実施しています。

中国は50年以上の永きに亘って広大な森林を伐採し続け、計画的に植林をしてこなかった為に、禿山や裸地斜面から大量の表土が流出するはめとなりました。昔は清流でチョウザメも生息していたという長江（旧揚子江）も、今では赤茶けた泥水の河と化しています。ダムの堤長2kmにも及ぶ三峡ダムも、いずれ流れ込む土砂によって埋まってしまうのではないかと心配されています。長江から流出する土砂の量は年間5.3億トンにも達します。

写真1

写真2

TOPICS

写真3

写真3は宜昌市周辺の表土が流出してガレキばかりになった禿山での緑化試験の現場です。100周年記念式典を終え、9月9～10日にかけて宜昌市分郷鎮の共同研究試験地を調査しました。現地の土壌条件が極めて悪いために保水性と養分供給機能がなく、通常の植林方法では定着とその後の植生がほとんど進行しない場所ですが、我々の開発した共生微生物の菌根菌を利用した新しい生態系緑化技術を適応することによって緑がよみがえりつつあるのが観察されました。現地林業局の高い評価を受け、今後我々の技術を用いて緑化することとなりましたが、やっと一歩を踏み出したというところで、今後の技術支援や協力関係が必要であることを痛感した次第です。

山口大学では東アジア研究科が設立されたこともあり、今後、東アジア、特に中国や韓国との学術交流や人材交流が促進されるものと期待されますが、中国は広大であり、山東大学以外にも交流の拠点を広げることが重要になると考えられます。北京師範大学は日本のいくつかの大学とも交流協定を結んで交流を進めていますが、山口大学でも交流を促進できればと願っているところです。

海外研修を終えて

アメリカ滞在記　～モンタナ編Ⅱ～

■ 中村　浩子　総務部国際企画課国際交流係

今回は、引越し、研修内容等について紹介します。

〈引越しよもやま話〉

2週間のホームステイのあとは、大学にある寮に移り住みました。ホストファミリーに手伝ってもらいながら、生活用品等の買い物をすませ、無事に新居へ落ち着きました。大学院生用の1人部屋で家賃は光熱水道料込みで月362ドル（家具付き）。ちなみに、駐車場については、University Policeという、大学にいる警察に許可を得て別料金を払わないと、駐車禁止の罰金を取られてしまいます（私も1度切符をいただきました）。このUniversity policeは、ほとんどの全米の大学に駐在しているのですが、れっきとした警察官で逮捕権もあり、大学構内の犯罪防止に役立っています。モンタナ州立大学のあるボーズマンはかなり治安のいい場所ですが、都会にある大学ではセキュリティは非常に重要であり、女子学生の送迎サービスも行われていました。例えば、大学内の寮に住む女子学生がダウンタウン（中心街）に出かける際に、大学がバスで送迎を行い、深夜の女性の1人歩きを避ける等の対策が取られています。

〈夏期研修について〉

夏の間は主に語学研修ということで、モンタナ州立大学（MSU）に置かれている語学学校での授業が中心で、その他MSUでの教育学部の大学院の授業の聴講、同時に、Office of International Program（OIP）という、国際交流全般（留学生の受入れ、学生の海外派遣の世話、交流協定の締結等）を担当しているオフィスにてインターンシップを経験させていただきました。

語学学校　MSUのキャンパスのはずれにある

住んでいた寮です

大学院の最後の授業で先生と他の研修生と一緒に撮ったものです。

TOPICS

語学学校のイベントでラフティングに行ったときのもの

大学院の授業の補講をしてくれていた
助手の方の家でのクリスマスパーティー

American Cultural Exchangeという語学学校は、組織はMSUとは別なのですが、協力関係にあるということでした。MSUへ入学を希望する留学生でTOEFLのスコアが入学要件に満たない者は、まず語学学校で英語を学び、そこで規定のレベルに達すれば、TOEFLは免除され大学への入学が許可されます（当然英語力以外の他の要件を満たしている必要があります）。これはMSUに限らず、他の州立大学でも語学学校を付設していて、同じシステムを取っているところが多かったです。授業はSpeakingとWritingを受講しましたが、特にWritingのエッセイの宿題には苦しめられました。１本書き上げるたびに力がついていくのを実感でき、日本語と英語の全く異なるWriting法（帰納と演繹）を改めて認識することができました。

大学院の授業　Needs Assessment in Educationという講義で、有効な評価の手段、いかに良いアンケートを作るか等について学びました。調査対象者の立場に立った、紛らわしくない言い回しを使った質問の作成方法、また、様式、文字サイズ、使う紙などについても説明を受け、最後のプロジェクトとして、大学教育等に関する調査内容及び調査対象を仮定し、自分で実際にアンケートを作りました。

インターンシップ　OIPにて、留学希望者に情報を提供する仕事をしている上司のもとで、実務を

インターンシップ先のオフィスの上司の家でのお別れ会

語学学校のクリスマスパーティーでクラスのみんなと
寸劇を行っているもの

経験させていただきました。ボーズマンは、熊本と姉妹都市ということで、MSUは、熊本にある、3つの大学（熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学）と交流協定を結んでいました。毎年何人かの学生が、日本へ留学しているようですが、日本のように義務教育の課程から必ずしも第２外国語を学ぶ必要のないアメリカ人学生にとっては、語学の壁もかなり問題になっているようで、どこの州立大学も相当な数の留学生を抱えていながら、逆に留学を希望するアメリカ人学生の数は、さほど多くないように思えました。そのせいか、OIPのスタッフは、授業中に教室まで出向き、交流プログラム紹介のプレゼンテーションを行ったり、大学会館のようなところの一室を借り切り、留学案内を行ったり、また、オフィスにて、インフォメーション・セッションを開き、学生に情報を提供し、海外留学希望者を募っていました。

次回は秋期研修等について紹介する予定です。

国際交流

タイ国5大学との第2回国際交流セミナー開催

■ 松井　健二　助教授　農学部　環境生化学講座

山口大学農学部はタイとの学術交流拠点である

山口大学農学部では去る10月6日から13日までタイ王国の主要5大学（カセサート大学、スリナカリンウィロート大学、チェンマイ大学、プリンスオブソンクラ大学、コンケン大学）の教官、大学院学生10名を招き、植物の生理活性揮発成分に関する国際交流セミナーを開催しました。山口大学農学部は平成10年より日本学術振興会とタイ学術研究会議の合意に基づく二国間学術交流（拠点大学方式による交流）の日本側拠点大学として、微生物の生物化学的研究に関してタイの研究者と研究交流を行ってきています。この学術交流は幾多の発表論文と特許を産み、着実に成果をあげています。そのため、多くの関係者がその成功に触発され、微生物以外の異なった研究分野でも同様の交流が可能ではないかとの提案がタイと山口大学の研究者双方から出されました。その提案を具体化する第一歩として去る3月にタイの主要5大学の副学長クラスのスタッフを山口大学に招き、第一回国際交流セミナーを開催しました。第一回セミナーでは研究交流課題を選ぶ目的で、山口大学とタイの5大学の持つ優れた研究能力、研究成果をお互いに紹介しました。その結果、山口大学農学部で実績のある植物の生理活性揮発成分に関する研究が注目を集め、この課題を新たな交流研究テーマとすることを確認しました。今回の第２回国際交流セミナーはそうした経緯に基づくものであり、今回は研究に直接携わる若手研究者を各5大学から厳選してもらい、彼等に山口大学農学部での植物の生理活性揮発成分研究の最先端の技術と研究動向を実際に経験してもらうことを目的に開催されました。

植物の生理活性揮発成分

地球上の生物の特徴のひとつは「匂いがある」ことです。植物でも沈丁花の花や果実の王様、ドリアンなどの例を引くまでもなく、海藻から高等

TOPICS

植物まで匂いのない植物は存在しません。植物の匂いは、植物が生合成し、放散する揮発性化学物質です。植物はこうした化学物質を無意味に放散しているわけではありません。例えば、花の匂い成分は花粉媒介者の昆虫を積極的に呼び寄せる信号であり、海藻では匂い物質が性フェロモンとして海水中での効率良い受精を担っています。こうした揮発成分を介した信号伝達システムは我々の予想以上に多岐に渉り、植物－植物、植物－微生物、植物－昆虫、そして植物－動物間のコミュニケーションの道具として極めて積極的にかつ動的に利用されていることが明かとなってきました。この研究分野は、匂い物質の単離とその構造決定という有機化学的手法から、匂い物質によって誘導される遺伝子の解析といった、分子生物学的手法、更には匂い物質のヒトの神経生理作用の解析に至るまで極めて多彩な先進技術を活用しなければなりません。今回のセミナーではそうした背景と我々の培った最新の知見を紹介すると共に、匂い物質の単離技術、マススペクトロメトリーを用いた構造解析、また匂い嗅ぎガスクロマトグラフィーを用いた匂い評価、更には匂い物質の植物病原菌に対する生育阻止効果、匂い物質による植物抵抗性遺伝子の誘導解析について実際に実験をしていただき、これらの技術の有効性を身を持って体験していただきました。わずか1週間の日程でしたが、朝から晩までじっくりと付き合い、研究交流のみならず人的な交流も期待通りに行われました。参加者はほとんどが欧米、あるいは日本での研究経験を有する極めて有能な科学者であり、活発な意見交換と実質的な討議を進めることができ、今後、この成果をもとに拠点大学方式に基づく新たな研究交流を確立していくことを目指しています。

匂い嗅ぎガスクロマトグラフィーを用いた実験

歓迎夕食会

国際交流

山口大学と公州大学校との短期学生交流

山口大学と韓国公州大学校は、平成11年に大学間交流協定及び附属書を締結し、相互に学生を派遣し、現在2名の交換留学生が本学で学んでいます。両大学の学生がお互いの国を訪ね言語と文化を学び・理解することを目的として始まった短期学生交流も、昨年に続いて2回目となりました。今年は、7月3日㈬から7月9日㈫に山口大学の受け入れ、8月16日㈮から8月22日㈭に公州大学校の受け入れで実施されましたので、下記のとおり報告します。

公州大学校訪問を終えて　　人文学部講師　和田　学

去る8月16日㈮から8月22日㈭まで、「公州大学校・山口大学短期学生交流プログラム」に基づいて、本学の学生7名とともに、韓国の公州大学校を訪問した。これは7月3日から9日までの公州大学校の訪問団受け入れに対応するものであり、昨年に引き続き、第2回目の訪問である。まず、公州大学校・崔錫源総長を始めとする関係者の方々のご尽力に感謝したい。

公州では、一週間という短い期間ではあったが、各種の授業、見学、ホームステイ等を通して、韓国の文化に直接触れることができた。今年はワールドカップに関連した一種の韓国ブームの感があり、各種報道等で韓国について見聞きする機会は増えたとは言え、直接体験するのに勝る学習はなく、その点でもよい経験であったと思う。また、今年は、日本による占領時代の資料を多く展示した独立記念館も見学することができた。重い内容ではあるが、学生には深い印象を残したようである。

公州大学校の学生と本学の学生は受け入れの時から既に、驚くほど親しくなっており、今回の訪問でも連日連夜、笑い声の絶えることがなかったのは今回の交流の最大の成果と言っても過言ではないと思う。

事前学習が不十分であったなど、反省点は多々あるが、それを生かして来年の交流がより良いものになることを期待する。最後に、本学関係者の方々のご理解とご協力に心から感謝したい。

山口大学と公州大学との短期学生交流を終えて　　学務部留学生課長　松岡　誠也

昨年度に引き続き、山口大学と公州大学との短期学生交流を7月から8月にかけて実施し、このたび無事に終了しましたので報告します。

まず、7月の公州大学学生受入計画の中に秋芳洞・秋吉台の見学を盛り込み、また、公州大学の学生に浴衣を着せて七夕祭に参加させたことは、異文化を体験させる上で有意義であったかと思います。更に、今年度はホームステイを関係者のご協力を得て実施できました。ホームステイにご協力くださいました方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。

8月16日から1週間、本学学生7名を引率して韓国の公州大学に赴きました。公州大学のある公州市は、遙か古い時代、日本と密接な関係にあった百済の古都で、百済といえば私にとっては非常に身近に感じられる国です。その公州市は周りを山に囲まれていて、一瞬、山口市にいるような錯覚にとらわれました。また、行き交う人々も日本人と顔形が全く同じで、話す言葉や文字が違うのみで、外国という感じはなく、どこか日本の原風景の中にいる気がしました。公州大学の職員、学生並びにホームステイ先の方の親切なる対応を受けて、韓国人の心の優しさ・広さに感銘を受けました。

この体験を通して感じたことは、私たちは異文化に接し、お互いにそれを尊重していかなければならないということです。お互いに過去の事実をしっかりと直視して、それを受け止め、その上で更なる交流を深めて協調を構築していかなければならないと痛切に感じます。この意味で、学生の短期交流は意義があるものと考えます。ですから本学の学生は、この山口大学と公州大学との短期学生交流に積極的に参加し、お互いに交流を深め、異文化に接して幅広い見識を身につけることを望んでやみません。

TOPICS

短期交流に参加して

人文学部人文社会学科2年　竹田　正子

公州訪問は大変密度の濃い充実したプログラムでした。古墳を見たり、歌を教えてもらったり、独立記念館を見学したり、 一日に2、3つのことをこなしたと思います。一週間でできることは全てやりました。そしてそれは大変な歓迎でした。たくさんのプレゼントを頂き、色々なごちそうを食べさせてもらいました。韓国人学生が山口に来たときはこんなに歓迎はできなかったのに、と申し訳なくなります。来年はぜひ山口でももっと盛大な歓迎をして欲しいです。

言葉の問題はあまりありませんでした。韓国人学生のほとんどが熱心に勉強していて片言ですが日本語を話せたからです。日本人学生はほとんど韓国語が話せないままだったのに、と努力と熱意にただただ感心するばかりです。

日本と韓国の文化はよく似ています。だから比べた場合、まず目に付くのは似ている箇所の多さで、そして徐々に異なっている部分が見えてきます。右車線、徴兵制、食事、年齢の教え方等々。そんな端々の差を理解していくたびに、韓国にまた一歩近づけたような気がして嬉しくなるのです。

「短期交流から永久の交流に。」プログラムの最後の話し合いでキム・ユンシクさんがこんな名言をおっしゃいました。この言葉が叶うようにまたいつか韓国に行きたいです。そして参加者が韓国、そして日本を知る大きなきっかけになるこのプログラムも、長く続いて欲しいと願っています。

教育学部健康科学教育課程3年　永冨　真子

今回、公州大学との7日間の短期交流を通して、私は多くのことを学び、日本では味わうことのできないとても充実した一週間を過ごすことが出来ました。私はこのプログラムに参加しようと決心するまで韓国についての知識はあまりありませんでした。韓国へ発つ前まで韓国についての知識を少しは身につけたつもりだったのですが、韓国を訪れてからは毎日が発見と驚きの連続でした。韓国の人々は顔つきや生活様式など日本と類似する点も多くあったけれど、今まで見たことのないような超高層マンションや、味わったことのない食べもの、色調豊かで鮮やかな韓国服や韓国の古典音楽など、私の知らない文化がここにはあり、人々がそれを大切にしている事を知りました。

私のホームステイ先で同じ歳の友達ができたのだけれど、私も彼女も英語が苦手で、始めは母国語に身振り手振りで会話していました。しかし、時間を共有していくうちに異なる言語でも気持ちが通じるのを実感しました。私は韓国についてもっといろんなことを学び、関心を持っていきたいと感じました。

これからは韓国のよさを伝えていって、この交流で生まれた輪がますます大きくなるように努めていきたいです。

最後に今回の交流は多くの方々の支えがあって成り立ったと考えます。本当にありがとうございました。

経済部経Ⅰ学科1年　椙村　尚子

韓国と日本の歴史から、私は韓国に対して罪悪感を抱いていたので、韓国の学生と心を開いて交流することが出来るかどうか不安でした。しかし、一人の韓国の学生が「短期学生交流ではなく、永遠学生交流にしよう。」と、言った瞬間、私の韓国に対する不安感はなくなりました。韓国と日本の歴史を知ることは、とても大事なことです。しかし、それ以上にこれからの未来を背負っていく私たち学生がお互いに心を開くことが大切であるということに初めて気が付きました。

韓国の人が来られた一週間と私達が韓国を訪れた一週間で、韓国の学生と私達は、お世話をされた韓国の先生から「困るくらい仲がいい。」と、言われるくらいに仲がよくなりました。お互いがうちとけて、韓国の学生や日本の学生というのを意識していませんでした。

この交流会を通じて私は、韓国という国をとても身近に感じました。これからの韓国と日本の関係が増々よくなることを心から願っています。そして、公州大学と山口大学の学生がお互いに理解を深め合う場としての交流プログラムをより良いものにしていって欲しいです。

公州大学を訪問して

経済学部経Ⅰ学科1年　山村　綾恵

1週間という短い期間ではありましたが、韓国公州大学を訪問できた事をとても嬉しく思います。そして、この地で経験した事はすべて私にとってかけがえのないものとなりました。韓国を訪問して一番感謝するのは、韓国の学生達に対してです。山口大学を訪問した彼らは、私たちの韓国滞在中毎日、ほとんど一日中私たちの訪問先に来てくれては、いろいろな事を教えてくれたり、韓国語を教えてくれたりしました。また、決められているプログラムが終了した夕方や夜も私たちを街やカラオケに連れて行ってくれ、私たちの同年代の大学生が何を普段しているのか分かりましたし、とても楽しい時間を過ごすことができました。私たちが一緒に過ごしたのは、お互いを訪問した2週間という短い間ではありましたが、私たちはとても仲良くなることができました。彼らにはとても感謝しています。また、韓国の学生と日本にはない徴兵制について話しあうことができ、この制度に対する価値観の違いを知る事ができたり、独立記念館を訪れることができたり、韓国人の日本人に対するイメージを知ることができました。1週間という短い期間ではありましたが中味の非常に濃い素晴らしい1週間でした。このプログラムで得られた物を忘れず、またこれからも韓国でできた友人たちとずっと連絡をとりあっていきたいと思います。

TOPICS

理工学研究科化学・地球科学専攻2年　　枝村　哲郎

「せっかち」な韓国。私はこう思います。色々なところでよく「パリパリ～（はやくはやく！）」という言葉を耳にしました。我々の予定が押していたのもありますが、実際に、短期間でインターネット先進国となった例もありますし、韓国の国民性をこのように感じます。また、韓国の方は思ったことをストレートに投げかけます。わからないことはわからない。思ったことはズバッと言う。日本人はとりあえず考えてみますよね。
このあたりにも「せっかち度」がでているのではないでしょうか？博物館や、寺院には、いつも人が溢れており、自国の歴史などに興味を持っています。さらに、独立記念館で韓国の視点から過去の日本が犯した罪をみつめることや、そのことに関して、若い方やお年寄りの日本に対する考えを聞き、過ちは素直に受け止め、謝罪し、それを二度と繰り返さない永久平和を創造していくことがこれからの時代を創っていく我々のできることではないでしょうか。
私に様々の貴重な体験を与えてくれた、この第二回を迎えた短期交流プログラムに参加できたことに心から感謝したいと思います。

工学部機能材料工学科3年　　牛尾　雄史

このプログラムは韓国の文化に直接触れることができました。また、日本との違いを知ることができるものであり、とても優れています。その中でも私にとって最も興味深かったことは韓国学生とのコミュニケーションについてでした。この体験について述べようと思います。
私は自己紹介程度のハングルしかできず、日常会話などは全くできませんでした。よって韓国学生と互いに十分な意思疎通をはかる言語をもっていないということが不安要因でした。実際にコミュニケーションをとろうとしたときには基本的に英語と日本語でした。それともう一つはbody languageでした。この中でも主に用いたのは英語とbody languageでした。ただ、英語については発音や英語に対する感覚の違いがあるので理解するのには苦労しました。また、韓国の人たちも英語能力に優れているというわけではなく、ネイティブに話しかけるときのように適当な英語では通じないことがしばしばありました。それでも、何度も意思のすれ違いを繰り返していくと、徐々に何を言いたいのか分かってきました。それは私なりに思うのですが、ある場面においてはあるきまった言葉を使う。そのタイミングはほぼ韓国でも同じであり、それは私たちが今まで生きてきた人生で無意識のうちに身に付けているものである。例えば、ハングルの会話で自分の知っている単語が一つだけ聞きとることができれば何を言っているか理解できることである。
このことから、私はコミュニケーションをとるために言語について考えさせられました。韓国の人が理解しやすい日本語を使うにはどう話せばよいかやどのようなハングルがよく使われるかなどです。また、韓国の人に限らず外国人とのコミュニケーションは何度も失敗する勇気とちょっとした工夫があればできるということです。

工学部社会建設工学科4年　　長岡　雅智

交流会に参加するまで、韓国というと、「近いし、TVや雑誌などでよく見かけるなんとなく知っている国」でした。しかし、実際に自分の目で見て感じた韓国というのは、新しいことだらけで、いかに自分が韓国について知識がなかったのかがわかりました。文化や考え方、街の雰囲気、食事、礼儀作法、どれも日本とは異なります。見た目が日本人とよく似ているだけに、アメリカなどの西洋文化に触れたときよりも驚きが大きかったです。
そして、今回の交流会で特に印象に残ったのは、兵役と戦争のことです。韓国の男子学生と話すと、必ずと言っていいほど軍隊の話が出てきます。２０kgの装備を持って遠征をしたとか、軍隊の訓練は厳しく時には死人が出るとか、日本では考えられないような話ばかりでした。また、ホームステイをした際、軍の殉職者の墓地に連れて行ってもらいました。そこは広大な敷地で、名前と殉職した日付と場所だけが書かれた簡単な墓碑が多数並んでいました。その少々現実離れした風景と、深々と墓に向かって礼をする韓国の友人に、改めて日本は平和なのだと気がつきました。そして、今まで特に何も考えず、平和であることが当たり前だと思っていた自分がとても恥ずかしかったです。　韓国人はお酒をとてもよく飲みます。それは1000回をはるかに超える侵略の歴史の中で、明日生きているかわからないから、これが最期になるかもしれないから「死ぬまで飲もう」と飲むのだそうです。1日を大切に生き、瞬間ごとにエネルギーを爆発させる韓国人の生き方、見習いたいと思います。

韓服衣装体験

韓国語で話してみましょう

平成14年度山口大学英会話（上級・海外）研修受講報告

リジャイナ大学（カナダ）短期集中語学講座を受講して

片山　恵子　教育学部光附属学校係

私は今年8月、約1ヶ月間「山口大学英会話（上級・海外）研修」として、「リジャイナ大学ＥＳＬセンター短期集中語学講座」を受講させていただきました。この研修は事務系職員を対象とし、語学力の向上だけでなく国際感覚も培い、なお一層の人材育成を図ることを目的として、今年度から始まった新しい研修です。

今年度の受講者は、私と附属図書館工学部分館の鳥谷和世さんでした。

〈プログラムについて〉

このプログラムは、都留文科大学と山口大学の学生を中心とした日本人のみの41人で構成されていました。ＥＳＬには日本人でアジア地区担当国際交流委員の通称ペコ（本名：永井栄子）さんという方がおられ、このプログラムのお世話をしていただきました。カナダ滞在中は、日本人同士で話すときも一切日本語を話すことを禁止され、誓約書にサインもしました。日程はだいたい午前中が授業で、午後がアクティビティでした。

〈授業について〉

授業はレベル別に10人ずつ4つのクラスに分けて行われました。教材はクラスによって異なりましたが、どのクラスもカナダの地理や人々や文化について勉強するという点では共通でした。私は渡航前はカナダについての知識がほとんどなく、カナダについて勉強することはとても興味深くおもしろかったです。わずか１ヶ月のプログラムですが中間テストと期末テストがあり、授業中に習ったことから出題されました。私たちのクラスは、授業で扱う教材の量や宿題が多く試験範囲も広かったので、毎日勉強が大変でしたが、その分鍛えてもらえたと思います。

ESLセンター

プログラム参加者全員で

TOPICS

カンバセーション・パートナーと

クラスメート、先生と一緒に

〈ホームステイについて〉

ホームステイもとても楽しかったです。ホストファミリーとの出会いは私の一生の宝となりました。わずか1ヶ月でしたが、私たちはとてもよい人間関係が築けたのではないかと思います。帰国後もE-mailの交換をしていますが、これからもずっと交流していきたいと思っています。

〈研修の成果・感想〉

英語力については、プログラムの最初と最後に同じようなリスニングとスピーキングのテストがあり、その結果を比較することによってどのくらい自分の英語力がアップしたか分かるしくみになっています。私は自分の英語力がアップしたという自覚はあまりなかったのですが、そのテストの結果で、多少なりともアップしたことを確認することができました。またペコさんのご尽力のおかげで、スケジュールの合間を縫ってリジャイナ大学の職員にインタビューさせてもらう機会もいただきました。私は国際交流学生プログラム・コーディネーターのメリッサさんから留学生関係の仕事についてお話を聞くことができました。またアクティビティでは、おそらく一生に一度だけであろうと思われる、本物のピストルを撃つ等の様々な経験もしました。この1ヶ月の間に数多くの貴重な素晴らしい体験をすることができたことを大変幸せに思い、このような機会を与えていただいたことを心から感謝しています。最後に、英語に関心のある人はもちろん、そうでない人にも、来年多くの人にこの研修を希望していただきたいと思います。

（鳥谷和世さんの報告は次号（64号）に掲載します。）

国際交流

中国山東大学との学生交流制度懇談会

■ 宮﨑　睦美　留学生課留学生係長

9月6日（金）、中国・山東大学 佟 光武国際合作与交流処処長が本学を訪問され、学長への表敬訪問の後、留学生センターで両大学間の今後の学生交流について意見交換が行われました。

〈交流の経緯〉

1983年、本学と山東大学の間に学術交流協定が締結され、研究者の交流が始まりました。その状況をふまえ、1998年人文学部・経済学部・理学部・農学部が授業料等を互いに不徴収とする学生交流の附属書を山東大学と締結し、学生交流が始まりました。

この学術交流協定に基づく派遣留学では、休学の必要はなく、外国の大学で履修した授業科目も本学で履修したものとして認定されます。

さらに、「日中学術交流奨学生に関する申し合わせ」により、山口大学と山東大学は、「学術交流協定に関する附属書」が締結されている学部学生又は大学院学生に対し奨学金（毎年1名以内）を支給することになっています。

山東大学との今までの交流実績は下記のとおりです。

山東大学→山口大学

年　度	受入学部・研究科	受入学生氏名	学部・研究科	備　　考
１９９８	理工学研究科	孫　同　軍	数学学院	日中
１９９９	経済学部	李　長　勇	法律学院	日中
２００１	経済学部	曲　明　軍	経営管理学院	日中
２００２	経済学部	郭　　琪	経営管理学院	日中

山口大学→山東大学

年　度	派遣学部・研究科	派遣学生氏名	受入学部・研究科	備　　考
１９９８	人文学部	河村　昌弘	国際教育交流学院	日中
１９９９	人文学部	佐藤　陽子	国際教育交流学院	日中
〃	経済学部	隆田　美穂	法学院	国費
〃	人文科学研究科	黒木　優子		中国政府
〃	人文学部	吉住　あい	国際教育交流学院	国費
２０００	経済学部	吉野　仁士	経済学院	日中
〃	人文学部	圓佳　志彦	国際教育交流学院	私費
２００１	人文学部	草場　友美	国際教育交流学院	日中
〃	人文学部	横松　良介	国際教育交流学院	私費
〃	経済学部	上田　典子	経済学院	国費
〃	経済学部	岡崎　詠司	経済学院	私費
〃	経済学研究科	古谷　桂子	経済学院	私費
２００２	人文学部	日高　奈美	国際教育交流学院	日中

注）「日中」とは日中学術交流奨学生をいう

TOPICS

学長室

留学センター

〈短期学生交流〉

山東大学では、学生指導の方針として在学中の海外経験を重視させたいと考えており、その機会を与えるため、日本の各大学へ多くの学生を派遣しています。そのため山口大学へも短期留学生（私費）を派遣したいとの要望です。2003年4月の交流協定更新に向けて検討される事項です。もちろん、山東大学では、交換学生を受け入れるための体制が完備され、500人程度の留学生を受け入れることができる宿舎を用意し、スタッフを整えています。是非、多くの学生が山口大学との短期留学を実現できるよう希望しています。

本学留学生センターの目標として、学生の短期外国留学の促進と留学生受入のための特別プログラムとして平成16年度までに夏期日本語集中講座を開始する予定です。実施の上は、留学生を通じた山口大学の国際交流推進に、より一層の効果が期待できます。

〈今後の課題〉

山口大学で留学生を受け入れる場合、まず問題になることが宿舎の確保です。国際交流会館の入居は、交流協定校の留学生受入を優先していますが、総入居室数が少なく、短期の留学生を受け入れる余裕がないのが実状です。

山東大学の受入・派遣を始めとして，今後，国際交流を活発にしていく上で、短期に利用できるゲストハウス、ホームステイで留学生を受け入れてくださるホストファミリーの確保等が必要になります。山口大学だけでなく地域における受入体制の整備が求められます。

環境を整え，学生が相互理解を深めながら国際感覚を身につけていけるような機会が増えていくことで、山口大学で諸外国との友好信頼関係が発展していくことが期待されます。

E-mail:GA142@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

公開説明会開催

山口大学公開説明会開催

7月11日に大学会館ホールで山口県内及び近県高等学校の教諭を対象とした公開説明会を開催し、87校104名の参加がありました。

丸本卓哉副学長の挨拶のあと、三浦房紀アドミッションセンター長から本学全般の概要を紹介し、学部の入試担当委員から学部概要や選抜方法に関する説明を行いました。

引き続き、入試に関する「平成15年度入学者選抜要項の主な変更点」の資料を参考に活発な質疑応答が行われ、有意義な説明会となりました。

また、夏休みを利用して高校生を対象とした公開説明会を8月6日から8日の3日間、吉田、小串及び常盤の3キャンパスで行いました。

6日に教育学部、経済学部及び工学部が、7日に人文学部、工学部及び農学部（生物資源環境科学科、生物機能科学科）が、8日に理学部、医学部及び農学部（獣医学科）で開催しました。

事前申し込みのほか、当日飛び込み参加の高校生と保護者を含め3日間で昨年を上回る約1,690名の参加がありました。

各学部では、学科・課程及び講座・学科目の紹介、入学試験、就職状況の説明のあと、学部紹介ビデオ、研究室等施設見学、ミニ講義、在学生との懇談会あるいはキャンパスライフ全般にわたる質問コーナーを設けるなど趣向を凝らした内容で公開しました。

高校生は教職員の説明に興味深く聞き入り、「自分の好きな分野に面白そうな先生がいらっしゃるので、がんばって勉強して是非、入学したい。」と将来の夢と希望に胸をふくらましていました。

（文責：学務部入試課専門員　柳井　進）

高等学校生徒等を対象の獣医学科公開説明会で、大学生活について語る学生たち

私の授業

夢への準備

三上　真人
助教授
工学部機械工学科

燃える想い

8月の初めに、島根県の三瓶山まで出前講義に行って来ました。私の高校の恩師から、中高一貫の夏合宿の最終日に“元気の出る話”をして欲しい、と頼まれたのです。

今回の出前講義を引き受けるうえで困ったことが2点ありました。私が出前講義で登録しているタイトルは「燃える～無重力実験から最新エンジンまで～」であり、理系の生徒が対象です。燃焼の基礎の話を卓上実験を交えて行い、それとエンジンの関係、そして、エンジン内の燃焼と無重力実験の関係などを話すのです。しかし、今回の対象は、理系だけでなく文系の生徒も、いやむしろ、文系の生徒が多いくらいでした。そして、普段の出前講義の対象が高校生であるのに対して、今回は、中学生も含まれていたのです。中学生の頃自分は何を考えていたっけ？悩んだ挙句、思い切り開き直ってタイトルを次のように修正しました。「燃える想い」

無限の可能性

講義内容は、夢の実現に向けて何をしたらよいだろう、というテーマについて、私自身の中学時代から今に至るまでの想いの移り変わりをベースに話をしました。現在の自分と私の夢の話のところで、本来のテーマの副題の「無重力実験から最新エンジンまで」についてふれました。

中学・高校時代の話のほとんどは悩んだり、失敗したりといった誰にも共通する話です。この講義の準備のおかげで、私自身が中学時代から今までの自分を振り返ることができました。中学時代に何を考えていたのか真面目に振り返ったのは、もしかしたら初めてかもしれません。自分を振り返ると、保身的だった自分が浮かんできます。いや、今でもそうですが、今の自分を否定されたくないがために、現状肯定をして狭い世界にこだわってしまうのでしょう。私が要所要所で出会った恩師達は、そんな私をそれまでの自分の思考の延長だけでは想像もつかないはるか高い理想を提示し、そこを当然目指すよう指導してくれました。私はそのような方々と出会うことで、自分はこんなところまで可能性を広げて考えて良いのだ、という喜びを得られたのです。守りは不安を呼ぶことがありますが、挑戦はむしろ安心を生むことがあります。私は教育とはこのようなところにあるのではないかと思っています。

大学時代、特に大学4年から大学院にかけて、ビッグバンの如く自分の世界は広がって行きました。それはとても中学・高校時代には想像もつかなかった広がりです。私の英語環境などを例にそのような話をしましたところ、「自分の将来にどのような可能性が広がっているか楽しみだ」というううれしい感想を得ました。

夢への準備

夢を実現した人の例として宇宙飛行士を挙げ、友人のアメリカ人宇宙飛行士の言葉を紹介しました。私の「宇宙飛行士になるためには何が必要か」という質問に彼は、「宇宙飛行士にはもともとなりたいと思っていたわけではなかった。チャンスが訪れた時にはすでに宇宙飛行士になるための準備ができていた」と答えたのです。この話には皆さん感じるものがあったようで、「自分の将来はまだわからないけど、来るべき時にすでに準備ができていた、と言えるように、今できる準備をしっかりしておきたい」という感想を多くの生徒が述べていました。

おわりに

このような安心感と希望を学生に与え、将来の準備を落ち着いてできるよう手助けするのが私の教育で目指すものです。かく言う私も夢の途上。さて、どんな準備をしましょうか？

私の研究

看護学生の臨床実習中のストレスについて効果的な実習環境づくりのために

正村　啓子
教授
医学部保健学科基礎看護学講座

保健学科看護専攻では、2年生の基礎看護学実習を最初に、いよいよ臨床実習が始まります。効果的な臨床実習とするために、事前に学生の実習中のストレスレベルおよびその要因について調査を実施しました。その結果を紹介します。

看護学生と臨床実習

臨床実習では、学生は、実際に健康上問題のある人を対象に、その人に必要な看護をその人の尊厳を守りながら判断し実践することを学びます。看護教育における臨床実習の意義は大きく、その修得単位数は23単位（必修）と連日の実習が長期間に渡って実施されます。臨床は、看護実践そのものがストレスフルであります。その上に、看護師や医師との人間関係もあります。少子時代に育ち、他人との触れ合いの少ない生育歴をもつ現代の学生にとって、臨床実習は、大きなストレスであると言われています。適度のストレスは学習意欲を高めますが、過度になると緊張を高め、ほかの事への関心がそがれ、教育効果を低下させます。学生の患者への関心を減少させる刺激は何なのか。今回、臨床実習の全科目を終了した医療技術短期大学部3年生を対象に、臨床実験中のストレスについてアンケート調査を実施しました。

学生が「強い」または「適応できない」ほどのストレスと感じていること

臨床実習中の学生にストレスとなりやすい状況に関連する55の質問項目を、Expanded Nursing Stress Scaleを参考に作成しました。学生がストレスを「非常に」または「適応できないほど」感じたことの第1位は、「時間外に実習記録を書く」55.6％と半数以上を占め、実習記録が学生に大きな負担となっていることがわかりました。学生の記述によると、1日の学習時間は平均して、実習のある日が3.7時間、休日4.5時間でした。第2～4位は「看護師の質問に答えられずに困った」27％、「指導看護師に報告しようと思うが見つからない」23.8％、「看護師に怒られた」19％の順で、いずれも「看護師との関係」でした。臨床では、学生は、自己の学習不足を様々な状況で感じており、また、看護師から一人の人間として尊重されないかかわりもあって、強いストレス状態におかれていることが予想されます。臨床実習中の学生の学習意欲を低下させる要因として、‘一人の人間として尊重されない関わり’が他の研究でも報告されています。

「知識・技術の準備不足」面でのストレスと生活の状況

質問項目の因子分析により、「知識・技術の準備不足」、「学生同士のサポート不足」、「ケアが適切でない」、「安全が保てない」、「患者の死や苦痛」の5因子を抽出しました。重みの最も大きい第1因子「知識・技術の準備不足」面のストレスが、学生の生活状況（家族と同居又は一人で生活、食事は他者が調理又は自炊、部活動の有無、アルバイトの有無）によって差違がないかを調べました。一人で生活している学生は、家族と同居している学生よりも「知識・技術の準備不足」面でのストレスが高い傾向が認められました。また、「他者との交流の少ない」学生は「交流の多い」学生よりも、有意に「知識・技術の準備不足」面のストレスが高い結果を得ました。これまでに、心疾患の調査において、仕事の要求度が高く、自由裁量性が低く、かつ職場での社会的支援（サポート）が少ない場合に最もストレス反応が高くなることが報告されています。看護学生にとって、臨床実習は、学生の能力に比べて求められる知識・技術の要求度は高く、自由裁量性は非常に小さい状況にあります。8割の学生が一人で自炊生活をしている

ことを考えると、今回の研究で明らかになった、「他者との交流を促す」対策の重要性が得心できます。学生同士の交流によるサポートをはじめ、指導者（看護師、教官）のかかわりも学生のストレス軽減には重要であることがわかりました。

今後の課題

臨床実習において効果的な実習環境をつくるためには、学生の負担を考慮した簡潔で有効な実習記録を作成すること、指導者が学生を一人の人間として尊重したかかわりをすること、そして、学生同士の交流を促進し孤立する学生がでないような対策が必要と考えられます。今後取り組みたいと思います。

〔なお、これは第98回山口大学医学会学術講演会（2002年7月）で発表したものをもとにまとめました。〕

☎　0836（22）2860
（E-mail）
masamura@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

言語現象への認知的アプローチ

武本　雅嗣
助教授
人文学部国際コミュニケーション講座

言語学の新しい方法論

言語学の分野において、十数年前から、認知的なアプローチをとる研究が増えてきました。この潮流は認知科学の流れを汲むもので、日本では、昨年ようやく日本認知言語学会が発足しました。認知言語学は従来の言語学の領域をすべて射程に入れていますが、そのアプローチは、記号の発現を可能とする前言語的な認知能力に関わる要因を重視して、人間の言語現象を包括的に捉えていこうとするものです。この種の認知能力のなかには、知覚、運動感覚、カテゴリー化、指示、参照点関係、空間認識・時間認識、イメージ形成、抽象的構造化、メンタルスペースの設定等に関わる能力が含まれます。

身体性を基盤とする言語観

進化の過程におけるヒトの記号系の発現過程について考えると、他の霊長類の記号理解能力や萌芽的な弁別的音声伝達能力や短期記憶・長期記憶といったことまで視野に入ってきますが、複雑な要因によって築き上げられている我々の概念体系を解明するには、認知科学の諸分野の知見を取り入れながら、現在証拠として採用できる人間言語の分析を優先的に行っていく必要があります。認知文法の立場の言語学者は、人間が生得的に言語獲得能力を持っているとしても、脳の言語野の活動のみによって言語が習得されたり意味が理解されたり言語現象が生み出されたりするわけではないので、言語能力は純粋にモジュールとして機能しているのではなく、生得的な認知能力および身体的・環境的経験に基づく認知能力と連関して機能しているという視点に立つわけです。そうすると、これまでほとんど取り上げられなかったような現象、たとえば比喩的意味の表出、比喩とその理解、慣習的表現の共通性と多様性、構文の拡張なども説明の対象となってきます。

認知の営みと言語現象

わかりやすい例を挙げますと、単なる慣習的な言い回しとしてほとんど誰も気にも止めないでしょうが、「道路が海岸に沿って走っている」というような表現も、我々の認知能力と無関係ではありません。実は、この種の表現は日本語に固有のものではなく、多くの言語にみられます。それは偶然の一致なのではなく、我々が非常に長いものを視線の走査（scanning）によっ

て捉えていることの表れだと考えられます。また、我々は際立つ部分で全体を表したり、逆に全体で部分を表したり、近接するもので対象を表したりしますが、このような認知の営みに基づく言語化を行う習性を持っているがゆえに、新しい経験をすると、新しいメタファーやメトニミーやシネクドキを生み出していきます。たとえば、髪を短く切ることを「頭を刈る」と言うのと同様に、コンタクトレンズを装着したり外したりすることを「目を入れる」「目を取る」と言う（あるいは言ってしまう）人がいます。このような言い方はコンタクトレンズ使用者の間でも定着しているわけではありませんが、誰かが言うのを真似たわけでもないのに同じ表現をする人が地域に関係なく存在します。ということは、この発話は、新たな身体的経験と共通して備わっている認知的習性によって創発されたメトニミー表現とみなされるわけです。

形式と意味の動機づけ

我々の日常言語には、身体性や感性に基づく様々な認知の営みが反映されているわけですが、柔軟で必ずしも境界が明瞭でない認識と極めて固定的で判然とした言語形式はもちろん1対1で対応しているわけではありません。前置詞や格助詞などの文法機能語は個別言語において意味的にゆらぎながら様々な微妙な関係を表していますし、言語構造は言語によって実に多様です。しかしながら、どんな自然言語の構造も決して我々の理解を超えたものではないわけですから、言語構造の違いは、認知的可能性の言語的顕在化の相違として捉えることができます。このような観点から、最近はとくに、インド＝ヨーロッパ語族のいくつかの言語を取り上げ、構文の共通性と多様性について考えています。構文は線的に延びている場合もあれば、放射状に拡がっている場合もあるのですが、構文のネットワークがどの方向にどこまで拡張するかは、個別言語において、認識レヴェルでどのような側面が重視されるかによって違ってくるのだと考えられます。比較・対照的な視点をとりながら、認知主体の概念化のプロセスやプロファイリングを分析し、構文の拡張現象における形式と意味の動機づけを探っています。

☎ 083(933)5254
(E-mail)
takemoto@yamaguchi-u.ac.jp

大学祭風景

姫山祭（11月3日）

常盤祭（11月3日）

－ 平成14年11月3日（日）～12月20日（金）　企画展開催

第18回企画展
「山口大学構内遺跡発掘調査速報展2002」

常設展
「出土品にみる山口県の歴史」
－山口大学埋蔵文化財資料館蔵品－

公開授業
「古代人の知恵に挑戦！　－ガラス小玉を作ってみようー」
開催と参加者募集のお知らせ

吉田遺跡から出土した弥生時代のガラス小玉を観察して、古代人がどのようにして作ったか考えながら、実際に自分の手でガラス小玉を作ってみましょう。

開催日	平成14年12月8日（日）
時　間	（受付）午後1時～1時30分 （授業）午後1時30分～4時（終了時間は多少前後するかもしれません）
対　象	小学校高学年・中学生（小学生は保護者同伴、一般の参加も可能です）
定　員	20人程度（定員になりしだい締め切ります）
参加料	無料（別途、保険料が必要です）
主　催	山口大学埋蔵文化財資料館

11月1日（金）から　電話、FAX、Eメールで申し込みを受け付けます。
詳細は埋蔵文化財資料館までお問い合わせください。

開館時間	午前9時～午後4時30分
休館日	毎週土・日・祝祭日 年末年始（11月3日の姫山祭は開館）
入館料	無　料
場　所	山口大学埋蔵文化財資料館

お問い合わせ先
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511　山口市大字吉田1677-1
TEL/FAX　（083）933-5035
E-mail　yuam@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

第76回日本産業衛生学会

学会案内

2002年10月3日更新

学会のお知らせ

■第1報
登録方法と締切日が変更になりました。
第2報をご覧下さい。

■第2報 New!

申込受付

演題登録

参加登録

リンク

日本産業衛生学会HP

■会期　2003年4月23日(水)～26日(土)

■会場　山口市民会館
〒753-0074
山口市中央2丁目5番1号
TEL083-923-1000

■主催　山口大学医学部人間環境予防医学講座
(公衆衛生学講座)

■メインテーマ　リ・ストラクチャー時代の産業衛生

■連絡先　〒755-8505
山口県宇部市南小串1-1-1
TEL:0836-22-2231
FAX:0836-22-2323
sanei76@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~sanei76/

新聞掲載された山大・地域から見た山大

7月

◆山口経済レポート　≪創刊30周年記念特別座談会≫
（旬刊:6月28日）
広中平祐山口大学前学長・田辺孝二中国経済産業局長
中谷実（社）山口県情報産業協会会長・司会:磯野恭子
山口放送（株）顧問

◆山口大理学部　土曜の午後「サイエンス」はいかが
サマースクール開講へ　27日から高校生、一般対象に
（西日本:6月29日）

◆新世紀の人材育成進める山口大学
加藤　紘・新学長インタビュー　（読売:6月30日）

◆東流西流　山口大学工学部教授 山本 哲朗氏
（山口:1日、8日、22日、29日8月5日、19日、26日）

◆「きれいな海で泳ぎたい」
室津海水浴場きょう海開き　山大生ら浜辺清掃　（毎日:1日）

◆山口大のボランティア団体
献血離れにストップを　学内PR奮闘、協力者増える（読売:1日）

◆記者ノート
「攻撃」に耐える大学像を　（毎日:1日）

◆サムシングエルスも登場!
山口大学で「七夕祭」6日、同大吉田キャンパス
（サンデー山口:3日）

◆掲示板　講演会「いま、日韓問題を考える」　（朝日:3日）

◆中国山東省から友好20周年記念
青年代表団が来県　企業見学や大学と交流も（西日本:5日）

◆事務職員の作業集約　ー山口大ー
定員削減に備える　（朝日:6日）

◆山大情報ビジュアルに　図書館職員らの「電脳『湧源』」
七夕祭もネット中継　同好会が取材や編集　（朝日:7日）

◆高校生を対象公開説明会　8月 山口、宇部市　（宇部:9日）

◆東ア研究や応用医工学
21世紀COEプログラム山大が中間報告　（山口:10日）

◆「街なか大学」学長に広中氏　14日に記念講演
（中国:10日・朝日・防長:16日）

◆山大の来年度入試要項
入学定員7学部1955人　（毎日・朝日・読売・山口:11日）

◆山口大が高校教員に説明会　就職や研究状況紹介
来月は受験生対象に開催
AO入試608人応募　（山口:12日）

◆高校履修科目偽り提出
ー山口大ー新入生80人余の調査書　（中国・読売:12日）

◆パソコンデスク作りませんか
来月に山大で木工入門講座　（山口・宇部:13日）

◆iネット授業　18日 山大工学部　（宇部:13日）

◆COE申請　広島大、全分野で11件
山口大 東アジア研究など5件　（中国:25日・山口:26日）

◆地域活動にトライ　山口大学生
夏休み利用 商店街支援など参加　（日経:27日）

◆まちなか研究室宇部に山大開設
記念シンポも　（朝日:29日）

◆さわやかな音色楽しむ
山口大病院で納涼行事　（宇部:26日）

◆防災へ消極的県民性明らかに
ー県内自治会長アンケート結果ー
関心はほぼ全国レベルだが“行政頼り”回答めだつ
工学部山本教授会見
自主防災組織率全国6割、県内は3割
（宇部時報:29日・日刊ウベニチ、山口:30日・山口:8月8日）

◆長崎豪雨災害と都市防災の課題
「防災フォーラムinながさき」に参加して　工学部山本哲朗教授　（日刊ウベニチ:27日、29日）

8月

◆海水浴場危険度チェック
「スプレー缶、ライター、携帯充電池!」
山大生ら結果はHPで　ー豊浦・小串ー（山口:3日、17日）

◆共同研究など数値目標定める　ーやまぐち産業振興財団ー
（日経・山口:6日）

◆施設や入試制度高校生らに公開説明会　ー山口大ー
（山口:7日）

◆防災対策「行政頼み」　ー山本哲朗山口大教授ー
26市町村自治会長へアンケ　（毎日:8日）

◆論　点　奨学金改革で留学生増を
山口大学教育センター助教授　何 暁毅氏　（読売:9日）

◆山大が動物講座　17日から3回、受講を　（山口:9日）

◆衆院文部科学委員が視察　ー山口大工学部や二俣瀬小も
（宇部:12日）
環境教育のモデルにビオトープなど回る

◆研究室オフィスアワー　異文化理解
山口大学教育学部助教授 石井 由理氏　（朝日:16日）

◆山大医学部同窓会「霜仁会」の50周年事業
山本寛斎さん来宇　9月14日に記念講演会
（宇部:14日、9月13日・西日本:9月17日）

◆山大写真部OBらが交流作品展　電遊館で始まる
（山口:17日）

◆中国・四国経済特集　ー山口ー
次世代医療機器に的　（日本経済新聞:24日）

◆学校事件・事故　心の傷助け隊
山口の医師らが救急チーム準備　（中国:29日）

◆環境や健康学ぼう　ー宇部市ー
来月から大学開放講座受講生を募る　（西日本:30日）

◆3年次からの編入受け入れ
来年度から山口大医学部保健学科　（中国:30日）

◆10月から山口大学公開講座
宗教を考える　（サンデー山口:30日）

◆地下水位の遠隔計測可能
山口大工学部田中正吾教授　（毎日:31日）

9月

◆夏休み中の活動を発表
山大生らHP作成など挑む　（読売:2日）

◆構造改革テーマに10月から公開講座
ー山大経済学部ー　（山口:3日）

◆山口大生が取材体験
就職準備インターン山口　（中国:3日）

◆井戸の水位即座に測定
山大教授らシステム開発「地震の予知も可能」（朝日:10日）

◆やまぐち街なか大学講座「時間の生物学・生物時計の話」
（朝日:11日）

◆衆院文科委が山大など視察　ーきょう萩へー
（山口:11日、12日・宇部:12日）

◆「災害対策は行政任せ」
山大教授アンケート自主防災に消極的　（中国:16日）

◆山大医学部同窓会・霜仁会の50周年記念行事（宇部:17日）
母校・医学会の発展を誓う
寛斎さん講演会　市民1000人が元気ステージ満喫

◆山口大、独法化へ中間まとめ　（中国・山口:18日）
産学官連携を重視　運営諮問会議へ提出
中期計画　人材育成にも力

◆“民間会計”へ準備懸命　ー山口大ー
法人化控え職員対象に簿記研修　（朝日:18日）

◆ゼミナール　よみがえれ地域産業
クラスター　TLOの活動も支えに　（日経:19日）

◆月曜日インタビュー　新しい都市観を提言
山口大まちづくり研究所所長　中園　真人さん（山口:23日）

◆姫山祭りめざせ集客1万人　実行委消滅の危機乗り越え
11月3日に山大大学祭　「伝統を後輩に」学生有志が奮起
（山口:25日）

◆法人化へ中期目標案　ー山口大ー
準備委提示　諮問会議で協議　（朝日:26日）

◆ベンチャー企業家を養成
山口大大学院に新コース　（読売・朝日・中国:26日）

◆徳山サテライトカレッジ　ー山大人文学部ー
来月7日に開講　（山口:27日）

◆民族衣装で文化交流　（朝日:27日）

◆来月から新コース　ー山大工学系大学院
経営も開発もこなす人材をー　（西日本:30日）

公開講座のお知らせ

講座名	開設期間	受講対象者	開催会場	問合せ先
ヒューマンスクール 宗教と文化	10月2日(水) ～ 12月11日(水)	市民一般	山口大学 教育学部 22番教室	山口大学総務部企画室企画係 TEL　083-933-5006 住所　山口市大字吉田1677-1 （募集期間9月1日～9月18日）
わが国の構造改革を問う	10月3日(木) ～ 11月7日(木) [毎週木曜日開講]	市民一般	山口大学 経済学部 B棟203	山口大学総務部企画室企画係 TEL　083-933-5006 住所　山口市大字吉田1677-1 （募集期間9月2日～9月19日）
外国語学習コース(ドイツ語) 「グリム童話を最終版と 初版で読む」	10月5日(土) ～ 12月7日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学総務部企画室企画係 TEL　083-933-5006 住所　山口市大字吉田1677-1 （募集期間4月上旬～10月4日）
日本文化コース 「あなたの言葉にわたしの ことばを見つめる」	10月5日(土) ～ 12月14日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学総務部企画室企画係 TEL　083-933-5006 住所　山口市大字吉田1677-1 （募集期間4月上旬～10月4日）
やまぐち学コース 「近世の山口」	10月5日(土) ～ 10月26日(土) [毎週土曜日開講]	市民一般 学生	山口大学 人文学部 講義室	山口大学総務部企画室企画係 TEL　083-933-5006 住所　山口市大字吉田1677-1 （募集期間4月上旬～10月4日）
地域の福祉事業と マネジメント	10月15日(火) ～ 11月12日(火) [毎週火曜日開講]	市民一般	山口大学 経済学部 第一講義室	山口大学総務部企画室企画係 TEL　083-933-5006 住所　山口市大字吉田1677-1 （募集期間9月詳細は未定）
ロボットのしくみを知って 動かしてみよう	10月26日(土)	中・高校生 及び市民一般	山口大学 工学部 機械・社建棟講義室 及びセミナー室	山口大学工学部総務係 TEL　0836-85-9003 住所　宇部市常盤台2丁目16-1
企画展示「山口大学構内 遺跡発掘調査速報展2002」	11月3日(日) ～ 12月20日(金)	小・中学生から 一般の方まで	山口大学 埋蔵文化財 資料館	山口大学埋蔵文化財資料館 TEL　083-933-5035
失業問題の多面的検討	11月14日(木) ～ 12月19日(木) [毎週木曜日開講]	市民一般	山口大学 経済学部 B棟201	山口大学総務部企画室企画係 TEL　083-933-5006 住所　山口市大字吉田1677-1 （募集期間10月11日～10月31日）
公開授業「古代人の知 恵に挑戦!ーガラス小玉 を作ってみようー」	12月8日(日) 午後1時30分 ～4時	小高学年・ 中学生から 一般の方まで	山口大学 共通教育棟 114番教室	山口大学埋蔵文化財資料館 TEL　083-933-5035

原稿をお寄せ下さい

広報誌は、学内だけでなく、山口県内の高校以上の教育機関、地方自治体及び主として、中国・四国地区の企業等学外の約500の機関に配布します。

ア．Q＆A欄について

山口大学についての質問をお寄せください。質問は、お名前、所属、職(学生の場合は学年)、年齢を付して文書でお願いします。Q＆A欄に採用させていただくときは、字数などの関係で文章を一部修正させていただくことがありますのでご了承ください。学外からの質問を歓迎します。

イ．催し物について

公開講座、学会、研究会等の開催計画がありましたら、日時、場所、名称、責任者氏名、所属、電話番号などをお知らせください。

ウ．「私の授業」「私の研究」「国際交流」「山口大学の将来についての提言」など

「私の授業」「私の研究」では、日頃おやりになっていることを、高校生にもわかるように、やさしく述べていただければと存じます。また、昨今、大学の将来についての関心が高くなっています。そこで、山口大学の将来のあるべき姿について、学内外から原稿をいただければ幸いです。建設的なご意見を期待します。

【執筆要領】

上記ウについて、執筆要領は次のとおりです。

１．原稿（図、表を含む。）は40字×40行で、できるだけワープロでお願いします。第１行は題名、２行目は氏名、所属部局名、研究室あるいは講座名、職、本文は４行目から始めてください。本文は３～４に区分し、小見出しをつけてください。

読者が連絡や質問をされる場合に便利かと思いますので、お差し支えなければ、原稿の末尾に研究室などの電話番号を括弧書きにしてください。

原稿は次の枠内のような形になります。

ワープロを用いない場合は、400字詰原稿用紙４枚以内で、ワープロの場合の要領に準じてお願いします。

ワープロで原稿を作成された場合、お差し支えなければ原稿と一緒にフロッピーをお貸しいただければ幸甚に存じます。

第1行　題名
第2行　氏名、所属部局名、研究室名、職
第3行　（空白）
第4行　本文始まり
.
.
第40行　本文終わり
（TEL ＿＿＿＿＿＿）

２．ご自分が写っている写真を一枚と本文に関連する写真も添付してください。研究や授業の場面の写真を歓迎します。

原稿には締切期限を設けません。適宜、下記までお送りください。そのほか、種々の問い合わせも下記まで。また、原稿はE-mailで送っていただいても結構です。

〒753-8511
山口市吉田1677-1
山口大学総務部総務課
広報・調査係長　有吉義和
☎083-933-5007　FAX083-933-5013
E-mail:SH011@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

訂正文

ＹＵ62号（7月号）３５頁トピックス『地域産業の活性化』の題名「タウンミーティグイン山口」は「タウンミーティングイン山口」の誤りでした。４５頁の「主催者は：山大秀村峯生、東大山崎恭規（日本）…」は「主催者は：山大季村峯生、東大山崎恭規（日本）…」の誤りでした。各執筆者の方には訂正して深くお詫びします。

編集後記

就職特集の座談会のQ&Aそして学部内外の投稿を読むと、「ライフプラン」、「ビジョン」、「生き甲斐」などを強調する文書が多いことに気がつきます。かつての就職特集号にも「キャリア・デザイン」の必要性をテーマにする記事が掲載されましたが、「ライフプラン」や「生き甲斐」は「キャリア」をはるかに越えて、送りたい人生を総合的に考えることが求められています。しかし、これから就職活動を本格的に始める三年生に彼らの「ライフプラン」を尋ねると、「急に言われても…」としか返って来ないことが多いです。これからの大学の大事な役割の一つは、学生のライフプランに提案したり、ビジョンの形成を支えたり、そしてその中に「勉強」の位置付けをはっきりさせたりすることにあると思います。最終的に個人個人が自分のライフプランをデザインしなければなりません。それも三年生になってからではなく、もっと早い段階で必要になるので、今回の特集を是非一年生に読んでいただきたいです。　マルク・レール

◎山口大学ホームページhttp://www.yamaguchi-u.ac.jp/index_ j.html

山口大学広報第六十三号
平成十四年十月二十一日発行
編集発行　山口大学広報委員会
（総務部 総務課）
住　所：山口市大字吉田一六七七―一
電　話：（０８３）９３３―５００７
ＦＡＸ：（０８３）９３３―５０１３
E-mail：SH011@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp
印　刷：有限会社 三共印刷

広報活動専門委員会委員
小谷　典子（委員長　人文学部）
坪郷　英彦（人文学部）
福田　隆眞（教育学部）
マルク・レール（経済学部）
小宮　克弘（理学部）
高橋　睦夫（医学部）
森田　昌行（工学部）
宇佐見晃一（農学部）
野島　真治（医学部附属病院）

専門委員
堀江　穆（アドミッションセンター）
熊谷　武洋（教育学部）
木下　武志（工学部）
小林　邦和（工学部）